# 2024 年度訪中団報告書

新潟大学創生学部　地域・国際交流 B

# 目次

1-全体日程表…… 2

2-活動内容と様子…… 10

3-学生個人レポート(振り返り)…… 51

4-その他(予算) …… 92

5-担当教員・同行教員からのコメント…… 93

# 1. 全体日程表

●【全体日程表確定版】2024/09/18(水)~2024/09/25(水)

●予定と異なる点は赤でしるしました。

| 日付 | 時間 | 行程 | 備考 |
|---|---|---|---|
| 9/18<br>（水） | 8：40 | 新幹線東口改札前集合 | 谷、松山（新大前）<br>7：29 発～7：53 着 |
| | 9：13 | 新潟駅発（上越新幹線とき 312 号） | 横山（巻）<br>7：49 発～8：34 着 |
| | 10：44 | 東京駅着 | 大澤（内野）<br>8：08 発～8：34 着 |
| | 11：33 | 成田エクスプレス乗車 | 関原（新大前）<br>8：12 発～8：34 着 |
| | 12：32 | 成田空港第二ターミナル着 | |
| | 13：00 | 成田空港全員集合<br>（第二ターミナル三階 マカオ航空「I」カウンター） | 集合までの間に換金する予定 |
| | 13：30 | カウンター並ぶ | 荷物のチェックをする<br>（スプレーや液体などを要注意、バッテリーがあるものは手持ち） |
| | 14：00 | チェックイン | |
| | 15：00 | 保安検査＆出国<br>出国完了 | |
| | 15：30 | 搭乗ゲート前集合 | |
| | 16：00 | 成田空港発 | |
| | 20：05 | マカオ国際空港着（NX861） | |
| | 20：30 | 荷物受け取り | |
| | 21：00 | 税関・入国審査 | API（路線バス）の確認、明日の移動手段の検討をつける |
| | 21：30 | ゴールデンクラウンチャイナホテル着 | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 9/19<br>（木） | 7：10<br><br>7：30<br><br>8：10<br><br><br>8：30<br><br>9：30<br><br>10：30<br><br><br>11：30<br><br><br>12：00<br><br>12：30<br><br><br>14：00<br><br>15：30<br><br><br>18：30<br><br>21：30 | 一階ロビー集合<br><br>朝食<br><br>一階ロビー集合（チェックアウト）<br>ゴールデンクラウンチャイナホテル発<br><br>タクシー（前日に予約）に乗車<br><br>ボーダーゲート着　關閘（全員到着）<br><br>ボーダーゲート発<br>小型マイクロバス乗車（7人乗り×2？）<br><br>北京師範大学国際交流中心ホテル着<br>（チェックイン）<br><br>北京師範大学国際交流中心ホテル発<br><br>昼食（大学内）<br><br>歩いてホテルに移動<br><br>ホテル着<br><br>大学散策<br><br>会同村<br><br>食事会<br><br>北京師範大学国際交流中心ホテル着 | 荷物をもって<br>←集合時間はマカオ到着後要相談<br><br>所要時間　最低１時間<br>→必ずボールペン持参<br><br><br><br>１台は定刻通り来たが、もう一台が大幅に遅れて到着するというトラブルがあった。<br><br>周さんが予約してくださる（珠海到着後）楊さんも来てくださる<br><br>大学院生の方々と一緒に（9/19、9/20） |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 9/20<br>（金） | | 朝食（各自自由な時間で） | 珠海 |
| | 9：30 | 北京師範大学珠海校区国際交流中心ホテル発<br>大学発、タクシー乗車 | |
| | 10：00 | 普陀寺 | 一日珠海観光の日で当初の予定より多くの場所を回った。 |
| | 11：10 | 珠海博物館 | |
| | 12：00 | 昼食 | |
| | 14：00 | ショッピングやマッサージなど | |
| | 17：00 | オペラハウス観光（珠海歌劇院） | |
| | 22：00 | 北京師範大学珠海校区国際交流中心ホテル着 | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 9/21<br>（土） | | 朝食（ホテル） | |
| | 9：00 | 北京師範大学珠海校区国際交流中心ホテル発 | 交流会後は学生同士で話して予定を決めた |
| | 9：30 | 北京師範大学珠海校区　交流会 | |
| | 12：00 | 昼食（学食） | |
| | 14：00 | カラオケ | |
| | | ショッピングモール | |
| | 19：00 | 食事会 | |
| | 22：00 | 北京師範大学珠海校区国際交流中心ホテル着 | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 9/22<br>（日） | 8：20 | ロビー（フロント）集合 | 珠海→南奥 |
| | 8：30 | 北京師範大学国際交流中心ホテル発<br>（車で移動） | 北京師範大学の先生方が送ってくれた |
| | 9：00 | 早茶（明珠）<br>（呉先生、胡先生が用意してくださる） | |
| | 12：16 | 明珠で高速鉄道に移動 | |
| | 13：15 | 広州南駅着<br>バスで移動 | |
| | 14：30 | 广州奥园高尔夫酒店　着 | |
| | 15：00 | 广州奥园高尔夫酒店　発 | |
| | 15：05 | 南奥実験学校到着 | 学校見学と授業準備 |
| | 19：00 | 食事会 | |
| | | ショッピングモールへ | 食事会のあとショッピングモールに行った |
| | 22：00 | 广州奥园高尔夫酒店　着 | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 9/23<br>（月） | 7：00 | 朝食（ホテル） | 南奥 |
| | 7：40 | ロビー（フロント）集合 | |
| | 7：45 | 广州奥园高尔夫酒店　発（徒歩移動） | |
| | 7：50 | 南奥実験学校到着 | |
| | | 全校集会見学 | |
| | 9：00 | 授業開始 | |
| | | 授業見学 | |
| | 11：30 | 給食 | |
| | 13：00 | 南奥実験学校出発<br>タクシーで移動（2、3台） | 広州市観光をした |
| | | 広州市図書館 | |
| | | ショッピングモール | |
| | | 北京路 | |
| | 19：30 | 食事会 | |
| | 21：30 | 广州奥园高尔夫酒店　着 | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 9/24<br>（火） | 6：30<br><br>7：00<br><br>9：00<br><br><br>11：30<br><br><br><br>12：00<br><br><br>13：00<br><br>18：00 | ロビー（フロント）集合、チェックアウト<br><br>中型バス（ホテル発）乗車<br><br>ボーダーゲート着<br><br>バスと地下鉄で移動<br><br>マカオ国際空港着<br>ゴールデンクラウンチャイナホテル着<br>（チェックイン）<br><br>昼食（空港内で）<br><br>空港から出ているシャトルバスに乗車<br><br>ベネチアンマカオ<br><br>夕食（ホテル） | 南奥→マカオ<br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br>マカオの状況を考え当初の予定と変更し、ベネチアンマカオのみを観光することにした。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 9/25<br>（水） | 6：00 | 朝食（ホテル） | |
| | 7：00 | ゴールデンクラウンチャイナホテル発<br>（徒歩約 5 分） | |
| | 7：05 | マカオ国際空港着 | |
| | 7：15 | マカオ航空カウンター（I） | |
| | 7：45 | カウンター並ぶ | |
| | 8：05 | チェックイン | |
| | 8：35 | 保安検査＆出国<br>出国完了 | |
| | 9：00 | 搭乗ゲート前集合 | |
| | 9：30 | マカオ発 | |
| | 15：00 | 成田空港着 | 全体ではここで解散 |
| | 16：44 | 成田国際空港第二ターミナル発<br>（成田エクスプレス乗車） | |
| | 17：45 | 東京駅着 | |
| | 18：12 | 東京駅発（とき 337 号） | |
| | 20：07 | 新潟駅着、解散 | |

# 2. 活動内容と様子

9 月 18 日

| | |
|---|---|
| 表題 | 出国 |
| 記録者 | 岩田文月 |
| 訪問した施設 | ゴールデンクラウンチャイナホテル |
| 施設の概要 | ＜ゴールデンクラウンチャイナホテル＞<br>マカオ空港に併設しているホテル。 |
| 内容 | 13:00<br>成田空港、第二ターミナル三階出発ロビーに集合した。<br><br>16：00<br>成田空港からマカオ航空 16 時発の飛行機に搭乗して出発した。<br><br>20:00<br>マカオ国際空港に 20 時過ぎ頃に到着した。<br>到着後、マカオ国際空港のすぐ近くのホテルに徒歩で向かい宿泊した。<br><br>21:30<br>ホテルのレストランにて夕食を取りながら打ち合わせをした。<br><br> <br><br>↑マカオ空港到着時の空港での写真 |

| | |
|---|---|
| | <br>↑マカオ上空<br> <br>↑ホテルのレストランにて打ち合わせ |
| 成果 | 初めて飛行機に乗る人や、初めて海外に行く人もいたが無事に出国して、全員目的地に到着できた。 |
| 反省 | 翌日のシャトルバスの手配に時間がかかった。現地での手配は慎重に進めるべき。 |

9 月 19 日

| | |
|---|---|
| 表題 | ボーダーゲート（關閘）通過、大学内散策、食事会 |
| 記録者 | 関原愛実 |
| 訪問した施設 | ボーダーゲート、北京師範大学珠海校区、国際交流中心、会同村 |
| 施設の概要 | 【ボーダーゲート（關閘)】<br>ボーダーゲートとはマカオ特別行政区と中国大陸(珠海方面)側に設置された門のことであり、中国大陸に入る際に保安検査などを受ける。入国審査とほぼ同じような感じであった。<br><br>【北京師範大学珠海校区】<br>北京師範大学珠海分校は教育省によって承認され、北京師範大学と珠海人民政府が共同で学部教育のために組織された普通高等教育機関である。また、中国国内の様々な場所から学生が入学してきている。中国国内でもエリート大学として存在しており、中国で質の高い革新的な人材を育成するための重要な拠点となっている。学生数は 2 万人程度で、教職員数は 3000 人余りである。敷地がかなり広大で、学校内を車に乗って移動することがあるほどだった。<br><br>【会同村】<br>珠海市にある清朝の時代から存在する伝統的な村。村の形状としては正方形で規則的なチェス盤のような道路構造になっており、中国と西洋の建築様式が融合している。現在は観光地となっているが、会同村には今もなお住んでいる人がいる。 |
| 内容 | 7：20～8：00<br>＜朝食＞<br>マカオのゴールデンクラウンチャイナホテルで朝食を食べた。<br>渡航先での初めての朝食だったこともあり全員が朝食をとることができた。<br>【実際に私(関原)が食べた朝食】 |

8：30～12：00

＜ボーダーゲート通過＞

ホテルから出発する際に、前日に頼んでいたタクシー2台のうち1台が来ないというハプニングが発生。先発のタクシーに乗ったメンバーが運転手さんにもう一つのタクシーが来ていないことを伝え、対応してもらえたため、後発のタクシーに乗ったメンバーもボーダーゲートに到着することができた。一時はどうなることかと心配だったが、メンバーが冷静に対応してくれていてありがたかった。良い学びになった。

日本での生活に慣れているとある程度時間通りに来ることや約束通りに物事がある程度進むのは当たり前だと思いがちであるが、海外ではそうはいかないことを実際に感じることができた体験だった。

【ボーダーゲート通過前】

【ボーダーゲート通過後(珠海)】

12：00～12：20

＜大学内散策＞

大学の敷地がとにかく広く下の写真のような学内を移動する車に乗って大学内を巡った。窓と扉がないので風が吹いてきたり、雨が降っている時はみんなで傘を差したりしながら乗っていた。

【大学内を移動する際に乗った車】　【車で大学内を移動中の写真】

【北京師範大学のモニュメントで撮影した写真】

12：30～14：30

＜昼食＞

大学の敷地内にある飲食店で胡先生、武先生と食事をした。お二方とも日本語を交えながらお話して下さり、終始和やかな雰囲気だった。

この昼食が中国の先生方との初めての食事会だった。

15：30～16：50

大学内散策

休憩で立ち寄ったお店。大学の敷地が広く大学内にも様々なお店が立ち並んでいた。このお店ではマンゴーのスイーツを食べた。

16：50～17：50

心理学センター見学

日本の大学では見られないような設備が沢山あり、学生の学習する環境だけでなく心のケアもできるような施設が整えられていた。箱庭療法やマッサージチェア療法など多様なケア療法が用いられているだけでなく、カウンセリングのための個室も用意されていた。

【マッサージチェア療法の部屋の様子】

【箱庭療法で使用される道具】

【心理学センターでの集合写真】

18：00～20:40

会同村

会同村内を散策したり、写真を撮ったりして各々が会同村の雰囲気を味わった。夕食は会同村内のお店で北京師範大学の先生方との食事会であった。食事会では白酒(中国本土のお酒でアルコール度数が 40 度～60 度ほど)や日本では見ることが無いような料理が出てきて、そこに文化の違いを感じた。実際食べてみるとおいしく、中国料理をもっと食べてみたいなと感じた。

【会同村の様子】

【食事会の様子】

【食事会全体の様子】

21:30　ホテル着

9 月 20 日

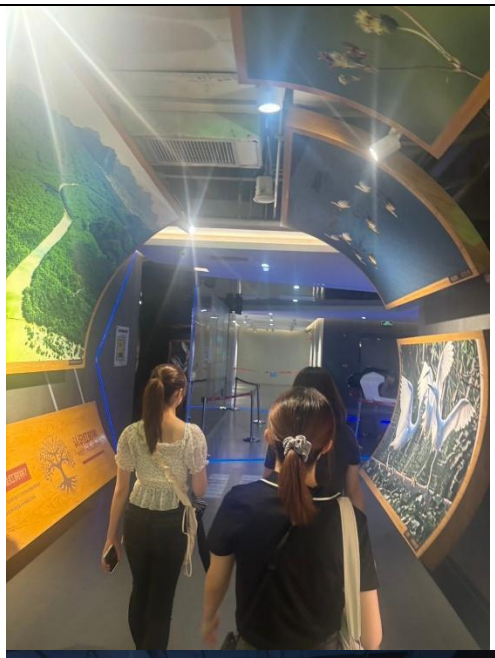
| | |
|---|---|
| 表題 | 珠海市観光 |
| 記録者 | 横山晴菜 |
| 訪問した施設 | 普陀寺・珠海博物館・オペラハウス |
| 施設の概要 | 〈普陀寺〉<br>普陀寺（プトゥオー）は、中国広東省珠海市に位置する美しい仏教寺院で、地域における精神的な中心地の一つとして知られている。この寺院は静謐な雰囲気と美しい景観に囲まれ、訪れる人々に安らぎと心の平和を提供する。また、普陀寺はその建築と芸術面でも知られ、多くの観光客や信者が年々この場所を訪れている。<br>（ALA!中国 より引用）<br>〈珠海博物館〉<br>1985 年 6 月に準備が始まり、1988 年 10 月に完成してオープンした。2020 年 10 月 26 日に海虹路に移転した新しい博物館は、広東省珠海市香州区海虹路 88 号に位置し、珠海計画展示館に隣接しており、総建築面積は 33,565 平方メートルである。展示面積は約 6,000 平方メートルで、合計 6 つの展示ホールには 15,560 点の文化遺物が収蔵されている。博物館の名前は中国の書道家、秦吉生によって刻まれた。<br>（Wikipedia より引用）<br>〈オペラハウス〉<br>広東省珠海市にある劇場。野狸島の埋め立て地に建てられ、2016 年に開業した。貝の形を真似た特徴的な外観をしており、クラシック音楽のコンサートから 2.5 次元ミュージカルまで、様々な演目に対応できるホールを備えている。珠海市の新しい「ランドマーク」とみなされている。<br>（Wikipedia より引用） |
| 内容 | 8:30～9:00<br>朝食（ホテルのレストランにて）<br>その後の移動はすべてタクシー＋周さんの自家用車<br><br>9:30～10:30<br>〈普陀寺〉<br>中国の古代の文化について学んだり仏教の雰囲気を体感したりして、清らかな気持ちになった。神社のような建物の中からお経が聞こえて |

きたことが印象に残っている。想像以上に暑くて長時間外にいることが危険だったため予定より短い時間の滞在となったが、有意義な時間を過ごすことができた。

↑普陀寺での集合写真

（左）普陀寺
（右）「福」という文字に惹かれて思わずパシャリ

11:10～12:00
〈珠海博物館〉
当初の予定からは少し変更して珠海博物館に行くことになり、珠海市の歴史を学んだ。



↑博物館の中の様子

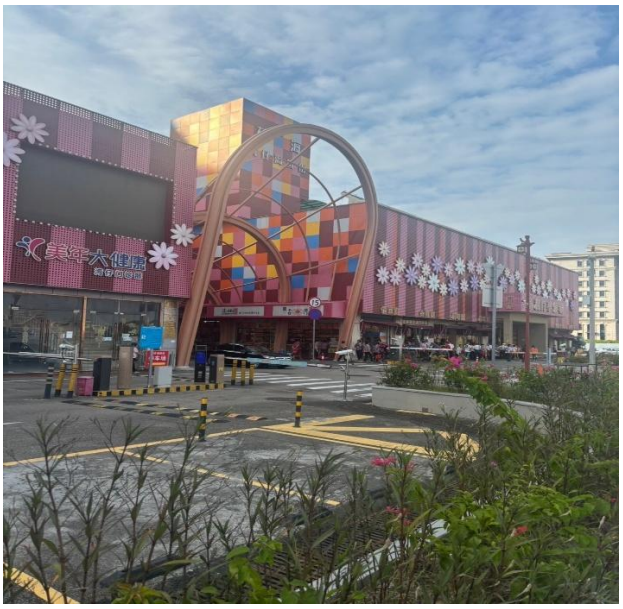
12:10～13:30
〈昼食〉
楊さんたちにおすすめされたご飯屋さんで昼食を食べた。屋台のような雰囲気のお店で、ハンバーガーや中華料理などいろいろな種類の料理があった。みんなで別の物を頼んで分け合い、また新たに中国の食文化を知ることができた。

↑昼食の様子

↑昼食で食べたものたち
　どれも日本では食べたことのない味でとてもおいしかった。

14:00～17:00
〈ショッピング、マッサージなど〉
ショッピングモールで服やアクセサリー、お土産を購入したりマッサージを堪能したりした。日本ではあまり見ないお菓子やかわいい服を買えて楽しかった。
先生方とは別行動になりタクシー移動も先生とは別で行った。

↑ショッピングモールの前にウサギのモニュメントを発見！



↑訪れたショッピングモール（ここで真珠のアクセサリーを購入して大満足だった）

17:30～21:00
〈オペラハウス〉
貝の形の建物がとても大きくて驚いた。オペラハウスの付近も栄えていてたくさんのお店があったので、ショッピングを楽しんだ。
夕飯もオペラハウス付近で食べた。支払いの場面に慣れてきてスムー

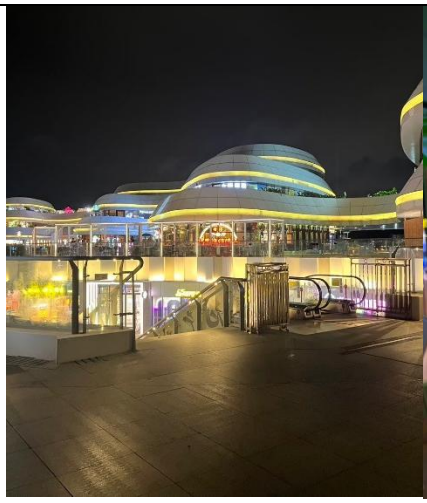
ズにできるようになってきたことが嬉しかった。
夜になると雨が降ってきたため少し早めに、タクシーに乗ってホテルに戻った。

↑オペラハウスでの記念撮影

（左）オペラハウス付近で見つけたひよこの前での一枚
（右）天井がキラキラで不思議な感覚になった

↑お揃いでキーホルダーを購入

↑夕食の様子

| | |
|---|---|
| |  <br>（左）夜のオペラハウスとその付近<br>（右）おすすめしていただいたお店で飲んだドリンク |
| 成果 | ・珠海市の観光地を巡り、その文化に触れることができた。<br>・買い物をする場面でしっかりと支払いができた。 |
| 反省点 | ・すべてタクシーでの移動だったが、タクシーの手配・支払いを立川さんや周さん、楊さん、田さんに頼り切りになってしまった。<br>・大人数での移動のため合流地点やタクシーの班分けを事前に決めておくと良い。<br>・快晴で日本以上に暑かったため、体調管理が大変だった。<br>→水分補給を忘れない。日傘や手持ち扇風機など暑さ対策グッズを持参する。できるだけ多く睡眠をとる。 |

９月２１日

| | |
|---|---|
| 表題 | 北京師範大学珠海校区の学生と交流 |
| 記録者 | 松山智紗 |
| 訪問した施設 | 北京師範大学珠海校区<br>国際交流中心<br>ショッピングモール内カラオケ<br>食事会場（名称不明） |
| 施設概要 | ＜北京師範大学珠海校区＞<br>100 年以上の歴史を持つ教育系の大学の珠海キャンパス<br>＜国際交流中心＞<br>北京師範大学珠海校区のキャンパス内にある宿泊施設 |
| 内容 | 9：00～12：00<br>**＜北京師範大学珠海校区の学生と交流＞**<br>北京師範大学の学生６名との学生交流を行った。スライドを用いて自己紹介と大学紹介を行った後、準備していたプレゼントを交換した。交流は主に英語で行い、必要な場合は通訳をしてもらう予定であったが、自分たちの力だけで伝えることができた。<br>12：00～13：30<br>大学内の食堂に向かい、それぞれが北京師範大学の学生らからおすすめのメニューを教えてもらい、昼食をとった。この際も会話は全て英語であったが、スマートフォンの翻訳に力を借りつつ意思疎通を図ることができた。<br> <br>左）学校紹介の様子<br>この写真は新潟県がどこにあるか、北京師範大学の学生に予想してもらっている<br>右）学食での食事の様子<br>学生から、「辛いのが苦手」「麺が食べたい」などのこちら側のリ |

クエストにぴったりあうメニューをおしえてもらった。初めて食べた料理だったが、非常に美味しかった。また、新潟大学の学食と比較して、値段の安さに驚いた。

14：00～17：30

**＜北京師範大学の学生とショッピングモール＆カラオケへ＞**

昼食後、タクシー3 台に分かれて近くのショッピングモールへ行った。服屋や雑貨屋などの様々なお店を見た後、カラオケへ行き、お互いの国の歌を歌って楽しんだ。洋楽はお互いに知っている曲が多くあったため、非常に盛り上がった。

カラオケに行ったりショッピングをしたりと、非常に楽しい思い出になった。そして非常に良い経験であった。

上）カラオケの様子

邦楽の中では「恋愛サーキュレーション」が一番盛り上がった。

**18：30～21：00**

**＜夕食会＞**

北京師範大学の先生方も多く参加し、非常に大きな円卓がある お店であった。この日は最後の夕食会であったため、夕食会の後に学生 6 人で「世界に一つだけの花」を歌唱した。

お茶を注がなければいけない、マナーを遵守しなければいけないという大きなプレッシャーがあり、この日は特に皆緊張していた。

| | |
|---|---|
| | <br>左）お茶を注いでいる様子<br>　上座の方から注ぐ。そして目上の方に注いでもらった場合、指で２回机を軽くたたく。<br>右）食事会の様子<br>　非常に大きな会場だった。奥にはソファなどもあり、外には綺麗な夜景が見えた。 |
| 成果 | ・学生交流を通じて、グローバルな交流や貴重な経験が出来た。また、英語で意思疎通を図るという点でも実践的な体験を通して成長できたように感じる。<br>・夕食会を通して、食事のマナーや習慣など知ることができた。 |
| 反省点 | ・昨年の先輩方のように一緒にスポーツをすることも考えていたが、時間的・天候的に上手くいかなかった。さらに、事前の連絡が上手くいっておらず、大学紹介の時間にかなり差が出てしまった。<br>⇒事前の打ち合わせをしっかりと行う必要がある<br>⇒決定事項の再確認をする必要がある |

9 月 22 日

| | |
|---|---|
| 表題 | 珠海から広州へ移動 |
| 記録者 | 谷南々帆 |
| 訪問した施設 | 海鮮佬鱼栏店・广州奥园高尔夫酒店・南奥実験学校・食事会場（北院） |
| 施設概要 | ＜海鮮佬鱼栏店＞<br>早茶（朝食）の会場。とにかく大きくて、部屋が何個もあった。生きている魚が水槽に入って並んでいて水族館みたいだった。<br>〈广州奥园高尔夫酒店〉<br>南奥実験学校から徒歩 5 分圏内にある、宿泊施設。<br>〈南奥実験学校〉<br>中国奥園地産集団が投資を行い、北京師範大学が全面管理を行う、9 年一貫制教育を行う新しい形の私立学校であり、北京師範大学珠海分校における基礎教育(義務教育)改革の実験（実践）おこなう学校。 |
| 内容 | 9:00~11:30<br>朝食と昼食を兼ねて早茶を体験した。早茶は、朝早い時間にゆっくりと時間をかけてお茶や点心（中華料理の軽食）を楽しむ飲茶文化のこと。早茶の会場は生きている魚や貝がたくさん並んでいて、小さな水族館みたいだった。ここで食べた海老小籠包が中国で食べた料理のなかで一番おいしかった。<br> |

(左)みんなで早茶を楽しむ様子。お茶はラカント茶で砂糖が入っていないのに甘い味がした。
(右)いろんな種類の魚や貝が並ぶ様子。

11:30~13:15
早茶の会場が明珠駅のすぐ近くだったので、明珠駅から広州南まで高速鉄道で１時間程度移動した。高速鉄道は日本で言う新幹線のようなもので、とても快適だった。高速鉄道は乗るときも出るときもパスポートを改札にかざす必要があったので、乗り降りするときは緊張感があった。

（左）明珠駅内の様子
（右）無事高速鉄道を乗れて安心している様子。

13:15~14:00
明珠駅から広州南駅まで移動し、そこから大型バスでゴルフホテルまで移動した。到着後は、次の日の授業の打ち合わせもかねて南奥実験学校さんを見学した。入り口のパネルで私たちのことを歓迎してくれて、とてもあたたかい気持ちになった。

(左)私たちを歓迎してくれている入口のパネル。
(右)校舎から見えるグラウンドの様子。
充実した施設が立ち並んでいた。大きなグラウンドに、テニスコート、バスケコート、食堂、そしてなにより驚いたのは敷地に寮があったことだ。

| | |
|---|---|
| | 18:00~20:00<br>夜は南奥実験学校の先生方に素敵な食事会に招待していただいた。次の日の授業が成功することを願って、乾杯を交わした。私たちのために、食事会場をいろいろ探してくださったと聞いてとても嬉しかった。また周さんにお茶の入れ方を教えていただいた。いろんな手順があって、実際にやってみたが難しかった。<br> <br> <br>(左)みんなで乾杯する様子。<br>(右)周さんからお茶の入れ方を教わる様子。 |
| 成果 | ・中国の早茶文化を体験することができた。<br>・事前の下調べと予約が功を奏し、見知らぬ国の交通機関（高速鉄道）を利用して、無事移動をすることができた。<br>・次の日の授業に向けて、それぞれのグループで準備をすることができた。 |
| 反省点 | ・南奥では移動手段が大型バスだったが、移動ごとの精算を忘れていたため後でまとめて精算するのが大変だった。<br>→移動ごとに精算はスマホにメモしておいたり、レシートを写真で撮っておくとあとで役立つ。<br>・この日に限らず、連日の疲労が溜まっていた。<br>→夜遅くまで作業が残っていたとしても、睡眠時間はきちんと確保しておくべき。 |

9 月 23 日

| | |
|---|---|
| 表題 | 南奥実験学校での授業日 |
| 記録者 | 大澤舞 |
| 訪問した施設 | 南奥実験学校<br>広州図書館<br>北京路<br>食事会会場（名称不明） |
| 施設概要 | ＜南奥実験学校＞<br>2002 年 9 月 1 日 9 年一貫教育が行われている北京師範大学が全面管理を行っている私立学校。<br>＜広州図書館＞<br>中国広東省の首都、広州にある公共図書館。<br>（Wikipedia より引用）<br>＜北京路＞<br>北京路は、中国広東省広州市越秀区にある文化、娯楽、商業が融合した通りであり、広州市の歴史の中で最も繁栄した商業の中心地であり、 1 日の平均人出量は約 200 メートルである。 35 万人[ 3 ]。北京路は北の広威路から始まり、南の延江中路で終わり、全長は 1,500 メートル以上。<br>（Wikipedia より引用） |
| 内容 | 7：50　学校到着<br><br>8：00～8：30<br>全校集会の様子の見学<br> <br>全校生徒の前で子供たちが立派に話をしているのを見て驚いた。全校集会の中で私たちのことを紹介して、歓迎をしてくださって嬉しかった。 |

全校集会を見学したあとはＡ班、Ｂ班にそれぞれ分かれて子供たちに授業をした。

↑教室全体の様子

Ａ班（大澤、関原、松山）
５年生に対して授業を行った。
日本の夏祭りについて紹介し、そのあとペットボトルで風鈴を作成する活動をした。私たちは英語で子供たちに授業を行った。思ったよりも英語が伝わらない場面もあったが、最後には子供たちが完成した風鈴を大切にしている様子が見ることができてよかった。また私たちに駆け寄ってきて、サインを書いてほしいと伝えにきてくれて本当に嬉しかった。

↑授業をしている様子

↑子供たちに風鈴づくりを教えている様子

↑最後に写真を撮っている様子

| | |
|---|---|
| | B 班（岩田、谷、横山）<br>６年に対して授業を行った。<br>授業 B 班では、日本のお正月と中国のお正月の違いについて紹介する授業を行った。日本のお正月の時期、食事、遊びについてのクイズや、日本の「かるた」と「けん玉」を体験する活動を交えながら 60 分間楽しく授業することができた。児童たちも積極的に授業に参加してくれた。<br> <br> |

↑授業をしている様子

10：00～11：20
美術と英語のクラスを見学させていただいた。
＜授業見学（英語）＞
英語のクラスはレベルが高くて、小学生ながら簡単な英語はすぐに話せていた。また、子供たちが元気で積極的に手を挙げて英語を話そうとしているのが非常に印象的だった。

↑真剣に英語の授業を聞いている様子

〈授業見学（美術)〉
美術の授業を見学した。水墨画を描く授業で、児童たちそれぞれが個性あふれる絵を描いている姿が印象的だった。

↑美術の授業の様子

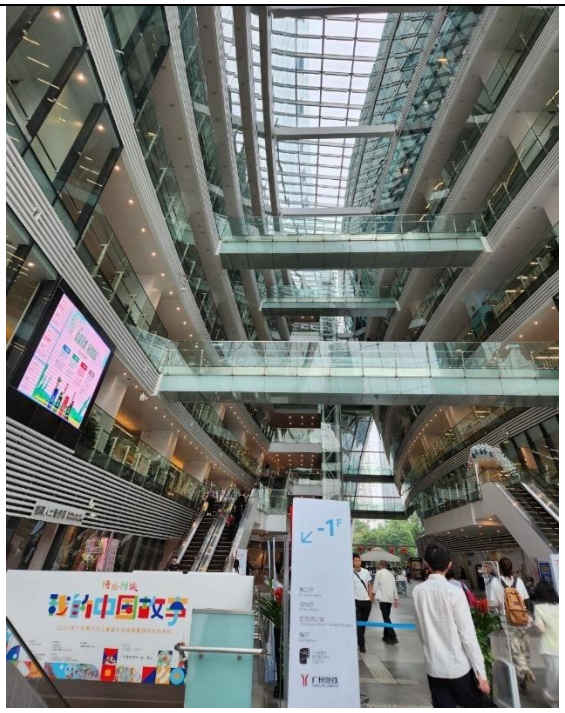
11：30～12：00
南奥実験学校の先生方と一緒に給食を食べた。とてもおいしかった。先生方が気さくに話しかけてくださって、楽しかった。

↑実際に食べた給食の写真。バイキング方式で好きなものを好きなだけ食べることができた。

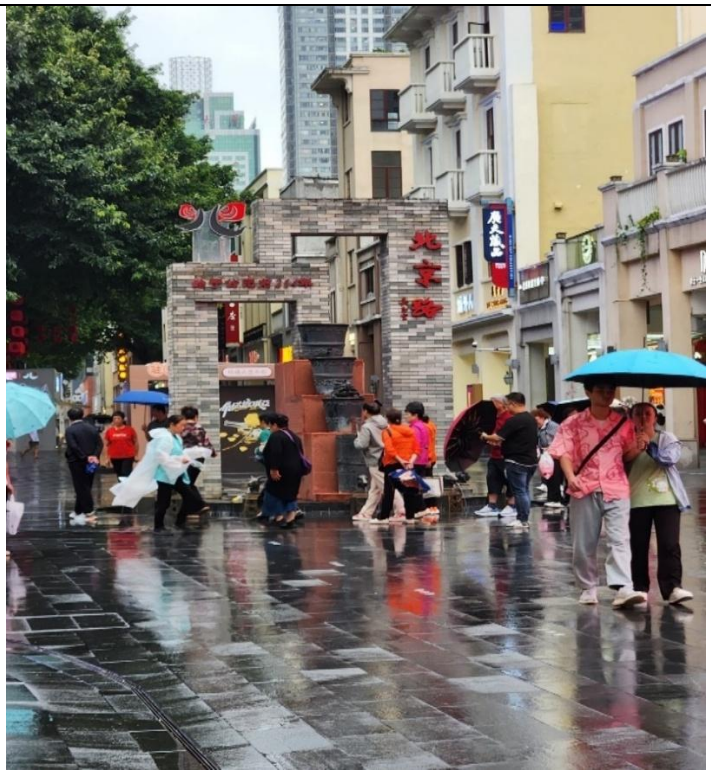
12：00～13：00
校長先生に子供たちがお昼寝をする場所を見学させていただいた。

↑お昼寝前の子供たちの様子

13：00～18：00
広州市を観光した
広州市図書館やショッピングモール、北京路を訪れた。
どの施設もきれいで、規模が大きくて圧倒された。




↑広州市図書館



↑北京路の様子

↑ショッピングモールの様子

19：30～21：30
南奥実験学校の先生方に食事会に招待していただいた。最後の食事会で全

| | |
|---|---|
| | 員がリラックスしながら楽しむことができた。<br><br> <br><br>↑食事会の様子<br><br>22：00　ホテル着 |
| 成果 | 授業をやりきることができた。子供たちが笑顔になってくれた。<br>食事会を最後までちゃんと参加できた。作法もしっかりできた。 |
| 反省 | 授業の準備不足で前日に詰め込んでしまって疲れが残っていた。<br>より入念に準備はするべき。 |

9 月 24 日

| | |
|---|---|
| 表題 | 広州市→マカオへの移動・マカオ観光 |
| 記録者 | 横山晴菜 |
| 訪問した施設 | ベネチアンマカオ |
| 施設の概要 | 〈ベネチアンマカオ〉<br>中華人民共和国のマカオにある統合型リゾート（IR）である。2007 年 7 月に完成。ラスベガス・サンズ が 2 番目に建設したホテルである。イタリアのベネチアをモデルに設計され、コンサートやバスケットボールなどで利用する コタイ・アリーナ 、カジノ施設等がある。 高さは 151m。<br>（Wikipedia より引用） |
| 内容 | 6:30　ロビー集合<br> <br>↑南奥実験校の先生がお見送りしてくださった時にホテルで撮った集合写真。朝早くとても眠かった。<br><br>6:30～10:00　マカオのボーダーゲートまでバス移動<br>無事にボーダーゲートでの手続きを終えることができて安心した。<br>10:30～11:30　ボーダーゲートからマカオのホテルまで地下鉄で移動<br>（大きな荷物が多いことから、予定を変更してホテルまでは地下鉄で移動することになった。） |

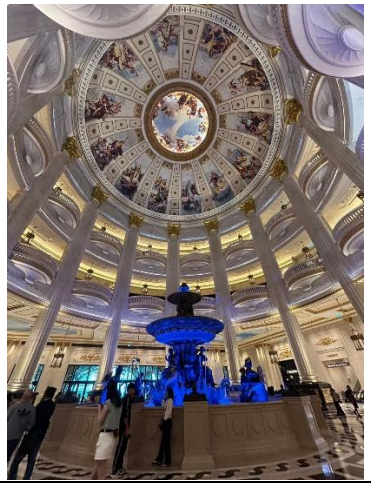
↑地下鉄に乗って移動中…

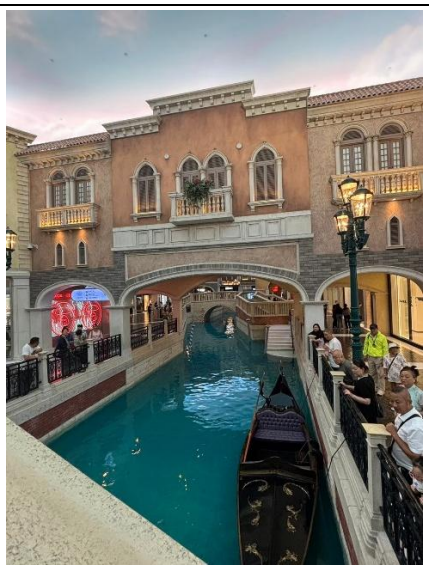
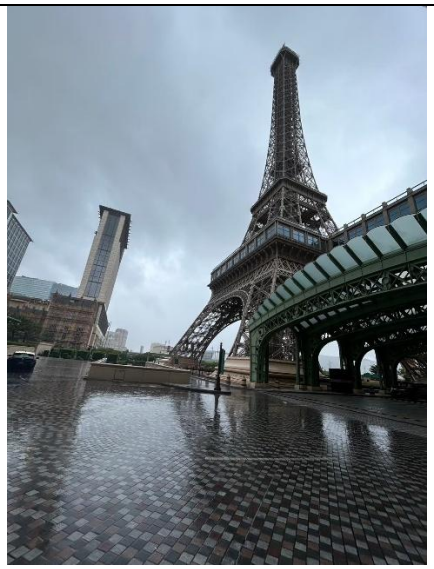
↑マカオの街並み

12:00～13:00　朝食兼昼食
マカオのホテルに荷物を置き一休み。その後マカオ国際空港のマクドナルドにて昼食を食べながら、今後の動きについて話し合いを行った。

↑マックでの様子

13:00～17:00
〈ベネチアンマカオ〉
無料のシャトルバスに乗車してベネチアンマカオまで移動した。
ベネチアンマカオでは終始その規模に圧倒されていた。
大勢での行動は難しいと判断し、２つのグループに分かれて行動した。ショッピングモールでお土産などをたくさん購入した。また、ヨーロッパを再現した建築などからロンドンやパリにいるかのような気分を味わい、異国感を体感できた。



↑ベネチアンマカオの様子

（左）ベネチアンマカオにあったエッグタルトのお店
（右）お土産用にたくさんのエッグタルトを購入

17:00～18:00　ベネチアンマカオからホテルまでバス移動
予定より早めにホテルへ戻り一休みした。疲労と眠気はピークで、ホテルに着いて部屋に入ってからは爆睡だった。

↑ホテルのロビーで力尽きた様子

18:00～20:00　夕食

ホテルのレストランで、マカオの料理と中国の料理の違いも見出しながら、先生方、立川さんとともにマカオの食事を満喫した。次の日の動きを確認したり帰国後にやるべきことを整理したりした。さらには、今回の訪中をざっくりと振り返ることもできた。

| | |
|---|---|
| | <br>↑夕食の様子<br><br> <br>↑ベネチアンマカオで購入したエッグタルトを夕食後のデザートに |
| 成果 | ・マカオの街並みを眺めたりベネチアンマカオでショッピングしたりして、マカオの文化に触れることができた。<br>・公共交通機関を使った移動ができた。 |
| 反省点 | ・マカオに到着してからの日程が不明確だったことやこの日の現地の状況が物騒だったことも相まって、マカオに着いてからどこに行くのか、どう動くのか、これからの動きを話し合わなければならなかった。皆疲れもたまっており、中々スムーズな話し合いにはならなかった。<br>→時間には余裕はあったものの、やはり事前の計画性が大事。調べても具体的な情報を得るのは難しいかもしれないが、できる限りのことは想定して備えておく。 |

| | |
|---|---|
| | ・マカオでの移動手段や経路の確認を立川さんに任せきりになってしまった。<br>→もっと主体性をもつ。予定していた行程を見直さなければならないと分かった時点からメンバーで協力して調べるべきだった。<br>・大人数かつ手荷物が多い状態で公共交通機関に乗車するのは大変だった。<br>・終盤では皆の疲れはピークになり、疲労と強烈な眠気に襲われた。<br>→体調管理のために睡眠は必要条件。夜眠れなかった人もバスでの移動時間に睡眠をとっておくと〇 |

9 月 25 日

| | |
|---|---|
| 表題 | 出国 |
| 記録者 | 岩田文月 |
| 訪問した施設 | ゴールデンクラウンチャイナホテル |
| 施設の概要 | 〈ゴールデンクラウンチャイナホテル〉<br>マカオ空港に併設されるホテル。 |
| 内容 | 7:00～<br>朝のフライトで帰国。早々にホテルを出発して空港にてチェックインした。それぞれ空港で朝食をとり飛行機に搭乗した。<br>みんなお土産で手荷物がいっぱいだった。<br> <br>15:00<br>成田空港に到着。<br>無事全員帰国し、現地解散。<br>全員が何事もなく帰宅できてよかった。 |
| 成果 | 全員が何事もなく帰宅できた。 |
| 反省点 | 入国の際の税関申告にて事前登録をしておくと便利。 |

# 3. 学生個人レポート(振り返り)

訪中を振り返って

x 23 c 042 j　大澤舞

＜事前準備を振り返って＞

昨年の国際理解リテラシーの時間に先輩たちが授業してくださり、その時にこの授業のことを知った。履修するかは迷ったが、大学生のうちに海外に行きたいという思いと、今年は 10 代ラストでなにかしたいという思いがあったため履修を決めた。

初めのミーティングでは役割分担をした。結果的に私は団長になった。正直なるつもりは全くなかったが、なったからには頑張ろうと思った。今回のメンバーは全員忙しいこと、そして昨年度と違い人数が 2 倍であることからできるだけ効率よく進めようとした。

準備段階での反省点は大きく 3 つある。1 つ目は、副団長をはじめに決めなかったことである。今回の人数は団長一人では足りなかった。副団長は直前になって関原さんに決まったが、彼女自身も直前に副団長となりどうすればよいか戸惑ったと思う。初めから決めていれば、私と関原さんで分担しつつ、より円滑に作業を進めることができたのではないかと思う。2 つ目は情報共有がうまくいかなかったことだ。メンバー間でのミーティングもできるだけ 6 人で行いたいと考えていたがなかなか予定があわず全員がそろってミーティングをする機会が少なかった。この時、ミーティングに参加できなかった人に対する情報共有がおろそかであったと思う。わかっている人とわかっていない人で差がうまれ、準備をするのに時間がかかった。文面だけではなく、言葉でちゃんと情報共有する時間をもうけるべきだったと思う。3 つ目は全員で対面で話し合う機会が少なかったことである。日程がなかなかあわず、長時間、対面で全員でミーティングできたのは直前になってからだった。初めからそうできていたらもっと余裕をもって準備をすることができたし、授業の準備などに時間を割くことができた。また、問題や急な変更への対処もスムーズにできたと思う。準備段階でよかった点は、去年の訪中を参考にしつつも自分たちの訪中計画を立てることができた点である。去年よりも日数、人数ともに多く計画を立てるのはとても大変だったが、去年の訪中を参考にしつつも、マカオから入国する、交流会ではお互いの説明ではなく活動をメインにするなど自分たちらしさを出すことができた。また、高いレベルの要求に対して全員が過密スケジュール、キャパオーバー寸前の状況の中で旅のしおり（事前準備）を完成させることができた。よく頑張ったと思う。

個人の反省点としては、団長として全員をうまくまとめることができなかったことである。やることが多く、負担を均等にすることができなかった。全体としてだけではなく、一人一人や担当ごとに話す機会を増やしてより詳しく全体を把握する必要があったと思う。よかった点としては、全体を把握しながら進められた点である。担当に進捗かどうかを聞

くなどして、全体に少しずつ関わりながら進められた。そのため自分がなにもわからない、質問には答えられるという状況を作ることができたのはよかった。それを自分だけではなく、全体に共有し全体で確認をしていくことができればもっとよかったとは思う。

＜訪中期間を振り返って＞

まずは時系列になにがあったかを振り返る。

【9/18】　出国日。初めての海外に行けるということで楽しみだった。また私は飛行機に乗るのが初めてでとても緊張した。離陸する瞬間が怖かった。両隣に座っていた二人が私を安心させてくれて助かった。マカオについた瞬間から、日本とは違う雰囲気で自分は海外に来たのだと実感した。夜に、初めての中国料理を食べた。口にあうか不安だったが、おいしくてたくさん食べた。まずは無事に到着することができて本当によかったと思った。

【9/19】　マカオから珠海へと移動した。ボーダーゲートに行くタクシーが一台時間通りにこないというハプニングがあったものの、無事にみんなでボーダーゲートを越えることができてよかった。北京師範大学に到着後、車（？）に乗せてもらって大学内を散策した。私は新潟大学も広いと思っていたが、比べ物にならないぐらいの敷地の広さ、大学内にある施設の充実度に圧倒された。また、車がアトラクションのようで楽しかった。張軍先生に心理学研究室を案内してもらった。私は心理学や人間学に興味があるため、先生の話がとても興味深く、勉強になった。今後の勉強にいきる貴重な経験であった。夜は先生方を交えて初めて食事会をした。円卓でご飯を食べることがなかったので新鮮に感じた。

【9/20】一日観光をする日だった。普陀寺やオペラハウス、博物館、マッサージなどに行った。どこに行っても規模が大きくて、施設が新しくて見ていて飽きなかった。見る景色がどれも新鮮で、改めて自分は中国に来たのだと実感した。

【9/21】交流会の日。初めは仲良くできるか不安だったが、中国の学生がたくさん話しかけてくれて、優しくしてくれて本当に嬉しかったし、助かった。また外国の人と英語で会話をするという貴重な経験もすることができた。すべてが思い出に残っているが一番の思い出は一緒にカラオケに行ったことだ。中国のカラオケが日本のカラオケと全然違って、アトラクションのようですごかった。また歌を通して心がつながって、楽しかった。夜は食事会で、お茶をつぐマナーなど中国の文化を体験することができた。

【9/22】珠海から南奥へ移動した日。午前中は早茶に行った。中国で食べた食事の中で早茶が一番おいしくて印象に残っている。餃子とシュウマイがおいしかった。実際はもっと長く食事を楽しむのだが、今回は短かったため次はもっとじっくり味わいたいと思った。南奥に移動してからは先生方が、南奥実験学校の説明をしてくれた。先生方の英語が聞き

取りやすかった。コミュニケーションをとりながら学校のことを詳しく学ぶことができた。夜の食事会の会場が豪華で、テーブルの真ん中に盆栽があったのが印象的だった。王嘉先生が私たちのために調べて見つけてくれたと聞き嬉しかった。そのあとはショッピングモールで買い物などをした。
【9/23】南奥実験学校での授業の日。準備してきたものをすべて出すことができたと思う。うまくいったこともいかなかったこともあったけれど、結果として子供たちが喜ぶ姿をみることができて嬉しかった。子供たちがよってきて握手やサインを求められてスターになった気分を味わえた。その後英語の授業を見させていただいた。小学校なのにレベルが高くて驚いた。学校をでたあとは、北京路を散策した。ここでたくさんお土産を購入することができた。夜は最後の食事会。中学生の男の子が私たちと話をしたいとのことで、食事会に参加してくれて嬉しかった。

【9/24】南奥からマカオへ。この日はベネチアンマカオに行った。室内なのにまるで外にいるかのように、別の地域にきたかのように感じた。施設が広すぎて全部をみて回ることができなかったので、もう一回行きたいと思った。また、年齢の都合上カジノに入ることができなかったので次はカジノも行きたい。夜は学生間で訪中を振り返って話をした。色んなことを乗り越えた達成感を感じた。思い出に残る夜だった。

【9/25】帰国日。最後に携帯の sim カードをなくしかけて、みんなを心配させてしまって申し訳なかった。だが、それ以外は特になにもなく無事に帰国することができた。やっぱり飛行機は怖かった。

ここからは、「交流会」と「授業」について振り返りをする。
【交流会】私たちが当初想定していたことと、中国側が想定していたことが少しずれていて焦った。また、急遽私が交流会を仕切ることになり、困ってしまった。Wechat でもっと連絡する、役割分担や段取りをもっと明確にしておくべきだったと思う。また、私の英語力が足りず、うまくコミュニケーションできない場面が多かったためもっと勉強しておけばよかったと思った。中国の学生が優しく私の言おうとしていることを聞こうとしてくれて助かった。次はもっと話すことができるようにしたい。ただ、結果として楽しい会になったし、私たちが用意したお土産をすごく喜んでくれて嬉しかった。

【授業】授業では想定とズレたことが 3 つあった。思ったよりおとなしい子供たちだったこと、英語が伝わらなかったこと、風鈴作成に難航したことである。特に英語が伝わらなかったためかリアクションがあまり得られなかったことに焦ってしまった。もっと簡単な英語表現、表記にする、日本語の分量を増やすなどの工夫をすればよかった。また風鈴作成も難易度を考慮して手順を簡単にするなど考える余地があったと思った。より準備に時

間を費やすべきだったと思った。想定とズレたときに、各々がうまく対応することができたため結果としてはうまくまとまってよかった。今回の経験を活かしてリベンジをしたい。きっともっとうまくできるはずだ。

訪中期間を通しての全体の反省点は、余裕がなかったことである。体力的にも精神的にも個人個人余裕がなかったと思う。だから、急な変更や準備などの対応が遅れたり食事会の際にプレッシャーを感じてしまったりと大変な思いをした。事前準備の段階ですでに全員キャパオーバーになってしまって、余裕がない状態で訪中期間に入ったのが原因である。事前準備にもう少し余裕があれば、訪中期間も大変な思いをしなかったと思う。

全体としてよかった点は誰も体調を崩さなかったことである。去年の先輩方から体調を崩したことを聞いていたため、誰か一人は体調を崩してしまうのではないかと危惧していた。また過密スケジュールでもあったため、誰が体調を崩してもおかしくなかった。でも全員が体調を崩さず、どの日も全員で行動することができた。本当によかったと思う。

＜全体を通して＞

訪中を通して異文化は実際に目で見て感じることが大切だと改めて思った。初めは正直中国にいいイメージはなかったし、中国人が日本人をうけいれてくれないのではないかと思っていた。だが、今回関わった人たちは本当にやさしくて私たちを「友人」と呼んでくれた。日本人に興味がある、会いたかった、話してみたかったと言ってくれた。また必ず会いたいと言ってくれた。今回中国に行っていなかったら私の中国に対するイメージはずっと変わらなかったと思う。すべての中国人が日本人に優しいとは言い切れないけれども、メディアや歴史などから作られた偏見で判断するのはよくないと思った。そしてこのことは、異文化に対してだけではなくすべての物事にいえることであると思う。これからはこの経験を活かして偏見で、事前の情報だけで物事を判断するのではなく実際に目で見て感じて、物事を判断していきたいと思った。

＜団長として＞

今までもリーダーをする経験は多くあった。だが、団長は今までとは比べ物にならないほど責任もプレッシャーも大きかった。中国ではリーダーを尊重する文化があるようで、リーダーだからと席が他のみんなの場所と違うなどということがあった。常にリーダーとして見られている感覚があった。そのため食事会の時や普段の振る舞いなど常に気を張って過ごしていた。食事会やお礼の挨拶などを任される機会が多く、訪中期間は一日に一回は自分が代表として話すことがあったと思う。食事会の挨拶は何度やっても緊張した。何を言うのかを考えるのにも苦労した。本当に大変だった。だが、国際交流の場で、日本代表として話すことは誰もができる経験ではないため、私は非常に良い経験をすることができたと思う。中国の先生方にも素晴らしいリーダーだと、お褒めの言葉をいただくことが

できて嬉しかった。全体を通して、学生間をまとめたり先生方とのやりとりをしたり、団長だから任されることも多くあり本当に苦労したし、つらいことも多くあった。反省点もたくさんあるけれど、すべてをやりとげた自分を褒めたいと思う。責任やプレッシャーをとても感じる場面でも自分の力を最大限発揮することができた、今回の経験は自分の自信になった。また今の私は訪中前の私よりも自分の容量が広がったと思う。今後は今まではキャパオーバーとなりできなかったこと、今までなら失敗してしまったこととも少しができるようになると思う。本当に大変だったけど、今後に生きる貴重な経験をすることができた。

＜最後に＞

私たちが貴重な経験をすることができたのは、渡邊先生、堀籠先生、田中先生、立川さん、周さん、北京師範大学と南奥実験学校の先生方、学生の皆さんのおかげである。私たちだけでは訪中をすることもできなかった。関わってくださった全ての人に感謝の意を示すとともに、この経験を今後の人生にいかしていきたいと思う。

そしてここまで一緒に頑張ってきたメンバー全員にも感謝したい。みんなが私の負担を分担しようとしてくれたり、団長として信用してくれて、感謝やねぎらいの言葉をかけてくれたのが本当に嬉しかった。みんなのサポートがあったからこそ、私も頑張れたし、訪中も無事に終えることができたと思う。関原さんは副団長としてチームをまとめるだけではなく、私にも目をむけてたくさん気遣って、声をかけてくれた。直前に副団長になったのにも関わらず、自分の役割を考えながら行動していてすごいと思った。自分もプレッシャーが大きかったはずなのに、私のことまで気遣ってくれてありがたかった。岩田君は現地で本当に頼りになった。唯一の男子でやりづらいことも多くあったと思う。男子だからこそ求められることも多い中で頑張ってくれた。彼がいたからこそ、助かったことが多くあった。素早く判断して行動できるところを見習いたい。谷さんはいつも全力で頑張ってくれた。だからこそ、負担をかけてしまった。みんなのために真っ先に自分から進んで行動してくれるところが本当に素敵だとこの期間で思った。松山さんは常に冷静で的確な意見をくれた。だからこそ頼ってしまうことが多かった。あまり気遣うことができなかったことを反省している。本当に頼りになった。横山さんはこのチームのムービーメーカーだった。どんな時も変わらずにいてくれた。時には私の気持ちに寄り添って声をかけてくれた。その優しさをみならいたいと思う。このメンバーで訪中をすることができてよかったと心から思っている。またみんなで中国に行きたい。

総じて今回の訪中は非常に良い経験だった。一生の思い出となるし、この先の人生で何度も訪中を思いだすだろう。今回の経験を残りの大学生活および卒業後の人生に活かしていきたいと思う。そして次に中国に行くときは今よりももっと成長した自分でいたいと思う。

地域国際・交流Ｂ　訪中事後レポート

X23C010A　関原愛実

1.　はじめに

私が今回の訪中に参加したきっかけは、1 年次の国際理解リテラシーの授業で先輩方が訪中での経験談を話していたことを聞き興味を持ったことが始まりだった。今までも、海外への興味は持っていたものの、実際に自分が海外に行くことはイメージができずに、海外に行くことは半ば諦めていた。そんな時に先輩方の訪中の話を聞き、中国への興味が湧き、特に食文化や小学校の様子が気になった。だが、一年生の時には行くと決めていたわけではなく、何となく興味を持つ程度だった。

2 年生になり改めて講義の案内が来た際に説明を聞きに行くことを決め、そこで自分の中で、ここで行かなかったら後で後悔するし、人生で中国に行けるのは今回が最後かもしれないと感じ、訪中に参加することを決めた。はじめは訪中に参加する選択は本当に自分にとって良かったのか立ち止まって考えることもあったが、全体を通して、訪中でしか学び取れないことやかけがえのない仲間と出会うことができたと思うと総合的に見てとても有意義な時間を過ごすことができたと思う。

2.食事会に関して

私が今回の訪中で一番驚いたことは食事会の作法だ。日本でも少なからず礼儀はあるとは思うが、私が知っている日本の食事会のイメージよりも数多くのマナーや作法があると感じた。それはきっと、中国の人々が古くから人との交流や繋がりを重んじ大切にしてきた名残があるからだと思う。中国に訪問し食事会に参加した際はこの作法や交流に対して多大なプレッシャーを感じてしまったこともあったが、お茶を注ぐ文化や隣の人にその人が好きそうなものを取り分けてあげたりする文化は相手のことを尊重していると感じ素敵だと思った。もしまた、様々な方と交流できる食事会に参加できる機会があったら、今回はうまく質問が出来なかったり会話を盛り上げたりすることができなかったので、些細なことでも気になったことは聞いてみたりして自分なりのスタイルで人と交流することを恐れないようになりたい。このようなきちんとした作法がある食事会に参加したのは私の人生の中で初めてのことだった。だが、この初めての経験を中国で何度も体験できたことで、少しだけプレッシャーに強くなれたと感じ、中国の文化を身に染みて感じることができたと思う。自分の異国の地である中国の文化を知ったことで、自分の母国である日本との相違点や似ている点を探そうとしたときにもう一度自国の文化を振り返る機会にもなったように感じている。また、食事会でお互いに渡し合ったお土産は今思えば、お土産を選ぶ時間から相手の好きな物や相手が喜んでくれそうな物を想像しながら選定していくため実際に顔を合わせる前から相手のことを考えていたと思う。そう思うとより長い時間相手と時

間を共にしたような気持ちになり、形式的にお土産を渡していたわけではなかったのだなと感じ人に物を送ることはただ相手に喜んでもらいたいからという気持ちだけではなく、離れていても相手の存在をより近くに感じることができるという意味も持っているのかもしれないと感じ、改めて人に贈り物をすることの意味を考えることができた。

【珠海での食事会の様子】

【広州での食事会の様子】

交流会で実際に中国の学生と交流をしてみて、言語が異なっていても仲良くなることができることを知った。もちろん、他国の人と仲良くなるには政治的な背景や相手の考え方を尊重したうえで中を深めていく必要があり、配慮しなければならないところもあるが、それでも異なる文化圏に住む人々と交流することは楽しいなと感じた。特に、北京師範大学の学生は様々な民族の方がいて日本よりも広い面積の国土であるからこそ日本よりも民族が多く、それらが混ざり合い、尊重し合いながら存在しているように感じた。これは日本でもいえることだと思い共通点を見つけられたようで嬉しかった。しかし、これらの情報は実際に対面で会うことができたから知ることができたものであり、もし、we chat 上でしか会話ができていなければ相手への印象や見え方は今とはまた違っていたと思う。そう思うとインターネットが普及し、国境を越えて様々な人と交流できる世の中になってはいるものの、オフラインで会って話すことでしか得られない関係があると感じた。また、お互いに拙い英語ではあるもののお互いに言いたいことを言い合ったり、伝わらない時には翻訳機を頼ってみたりしながら積極的に交流する意識があったことから今回の交流会はうまくいったと感じている。この交流会が終わったからといって相手方の学生との交流をなくしてしまうのではなく、雑談でもいいので we chat でこの関係性を引き続き繋いでいきたいと思う。しかしながら、交流会の司会進行の大部分を大澤さんに任せきりになってしまい、周りが見えていなかったり、自己紹介のスライドが中国の学生たちが作成してきてくれたものよりもライトになりすぎてしまったりしたのは私の反省点である。

もし次回このような交流する機会があったら、話すことで精一杯になることがないように自分がやるべきこともやりながら自分のチームと交流相手の両者とコミュニケーションをとることを忘れないようにしたい。他にも、グループ内で会話をすることが疎かになっ

てしまいがちになってしまったのでもっと周りを観察する力を養い、誰か一人に負担が行ってしまったり、他人任せになってしまったりしないように普段から気を配れるようになりたい。また、お互いのことを知るためにも自己紹介の内容の中に自分の出身地で有名なものについて紹介したりするなどもう少し情報をつけ足し自己紹介で自分のバックグラウンドや興味のあることをある程度知ってもらえるようにしておけばもっと深く交流できたと感じた。このことから、中国の学生側がどの程度の情報を自己紹介スライドで紹介する予定なのかを事前に確認できていればよかったと感じた。だが、交流会全体を通して、あいにくの雨という天候の中ではあったが北京師範大学の学生と国境や年齢関係なく楽しく話をすることができたし、カラオケやショッピングセンターに行って楽しい時間を共有できたことは嬉しかったが、もう少し自分の英語もしくは中国語の語学力が身についていれば自分の伝えたいことを正確に自分の言葉で話すことができていたと思うと少し残念である。しかし、これは今回中国を訪問して海外の人と話すことを体験できたから感じられたと思うと中国を訪問したことで得られたものとしては大きな学びだったように感じている。

【北京師範大学の学生との交流の様子】

3.授業に関して

私たちの授業グループは日本語でも中国語でもなく英語で小学五年生に対して授業をした。なぜ、英語を選択したのかというと、中国の学生は日本よりも英語が話せる人が多いイメージがありできるだけ自分たちの言葉で日本について伝えたいと考えていたからだ。しかし、英語で授業をするにあたって多くの課題があったと思う。まず授業の準備段階で大変だったことは、私たちが伝えたいことを英語に翻訳していく作業だった。特に日本語を英語にすると見た目が長くなり読みにくいスライドが出来上がってしまったり、言い回しを簡単にしようと努力したのは良いものの思うように伝わりやすい英語にすることができなかったりした。それに加えて、私たちは全員が風鈴を作成し終えることを目標としていたため目標設定が現実的ではなく、授業を構成していく中で自分たちが自分たちの首を絞めてしまっていた部分もあったように感じている。また、実際の授業では緊張もあり話すスピードが早くなってしまい、中国の児童が話を理解できているか、楽しめているかを

確認する余裕がなかったことは反省している。だが、今回の授業を通して、自分の母国語である日本語を話すことは中国の児童にとっては異文化体験になるという発見があった。また、異言語話者に対して自分の伝えたいことを正しく理解してもらうことや教育の難しさを改めて感じた。
これらの学びは、今回中国で小学生に対して授業をしていなければ得られなかった学びだと感じている。

今回の反省を活かし、もし次回授業をするとなるならば、私は日本語を沢山盛り込んだ授業をするだけでなく、英語を使う際にはより簡単な単語や文で詳細なところまでは伝わらなくても概要は掴んで理解できるような授業を作りたいと感じた。また、それだけでなく、授業を行う際には相手の言語レベルを見極める力をつけたい。もっと自分が伝えたい人に寄り添った内容の授業ができるといいと感じた。

授業後には実際に南奥実験学校の生徒が利用している学校の食堂でご飯を食べた。食堂の机の上には丸ごとリンゴが置かれていたのは日本とは違う感じがして面白かった。他にも校長先生が食事後に実際に児童たちがお昼寝をする部屋を見せてくださった。基本は二段ベッドがあり数人で一部屋を使っており、そこでは児童たちが寝る前に友達と遊んだり、食べ物を食べていたりしていた。日本にはない中国のお昼寝文化ならではの様子を見ることができてとても貴重な経験だったと感じている。

【小学５年生への授業の様子】

4.グループでの役割とグループ全体に関して

全体を通して私の役割は交流会と副団長であった。交流会担当としては正直あまり沢山の仕事をできていたわけではなく、松山さんや大澤さんに頼っていた部分が大きかったと思う。また、副団長の仕事も途中から割り振られたことによって団長と副団長がやるべき仕事があやふやになってしまい、あまり役割を担えなかったと感じている。このことから、まず訪中団が結成された時点で役割をもう少し細かく考えられていれば良かったと考えた。また、逆に細かくしすぎてもお互いに管理できなくなることがわかったので役割の数をチーム内で管理できる範囲内に収めるべきだと感じた。それだけでなく、もしもう一度同じメンバーで中国を訪問する機会があるとするならば、役割があるから自分がそれを全て背

負って全うしなければならないといったような過大なプレッシャーを個人個人が抱えることがないようにもっとコミュニケーションを密にとって頼り合うことができる関係値を中国に訪れる前に築いておきたいと思う。もう一つ準備段階の反省点としては、ミーティングの回数が少なかったことだ。この原因は、今回の訪中メンバー６人は全員がアクティブだったため予定を合わせることが難しかったのもあるが、訪中団が結成されてすぐの段階から効率を重視しすぎてしまった部分もあるのかもしれないと感じている。特に、集まったメンバー全員が初めから仲が良い状態ではなかったため、チームビルディングをしていく上でお互いに交流し合いながらどんな人なのかを知っていくためにもミーティングの回数をもう少し増やしておけば直前まで慌てて準備するようなことはなかったと考えている。だが、中国を訪問してからは、お土産の追加・変更や食事会における対応などはお互いに声を掛け合いながら確認し合ったり、何人かでまとまって管理したりすることを心がけられていたのは良かったと思う。その一方で、確認のところで些細なミスが起きた時にお互いに心の余裕がなく少し衝突してしまったこともあった。これらのことを踏まえて履修登録から中国を訪問するまで、様々な面で準備や礼儀・マナーを身に着けることに加えてグループとして意思疎通を図ることは人数が多い分、特に難しかったように思う。それだけでなくもう少し上手な時間の使い方や日程の組み方を考えることができたはずだと振り返ってみて感じている。例えば、1 か月前から予定を押さえておいて絶対にそこには他の予定を入れない意識を全員が持つべきだったし、1 人 1 人が MTG の重要度や優先度を考えて取り組むべきだったと思う。個人的には準備段階で個々の訪中に対する意識の差が大きくあったことも影響していたために統率が取りづらかったのだと思う。しかし、この経験で学んだことを活かし、次にグループで活動をする機会があるならば、計画的に物事を進められるように意思疎通を取り足並みを揃えて訪中について考えることを第一優先に動けるようになりたい。また、相手の特徴や個性・得意なことを知るためには長い時間をかけて相手とコミュニケーションをとって関係値を築くことが必要なことが分かったので、これからグループで活動する際には交流する時間を十分に確保したうえで活動したいと感じた。

5.おわりに

今回訪中に参加してみて、訪中以前よりも中国という国に対して大きな関心を抱いた。初めは、このタイミングを逃したらもう中国に行くことはないかもしれないと思い勢いで参加したところが大きかったが、中国の街並みや人の優しさ食文化に触れていく中で自分の中の中国のイメージが大きく変わった。履修登録当初の私は中国に対して怖いイメージを持っていた。しかし、中国を訪問してみると、現地の人は優しい人ばかりで暖かく迎えてくださったし、日本人だという理由で差別してくるような人には出会わなかった。きっと今回訪問していなければ、中国は怖いというイメージから脱することができずに狭い視野の中で自分の住む世界を狭めてしまっていたと思う。そう思うと、中国に行くと決断し

た自分の選択は間違っていなかったし、絶対にただの旅行では得られない量の経験と学びを得ることができた。そして、授業のグループで行くということの大変さを同時に感じた。また帰国してみて、もちろん母国である日本の安心や暖かみを感じる機会にもなったが、自分でも驚くほど予想以上にもう一度中国に行きたいと感じている部分がある。特に中国語と日本語の通訳をして私たちの旅を助けてくれた周さん、立川さん、楊さんや田さんをみていて、様々な言語を話せることのかっこよさを感じ中国語にも興味が湧いた。正直、交流会や授業で現地の学生や児童達と交流していく中でうまく伝えたいことが伝わらないことも多く、諦めてしまったこともあった。このことを今も悔しく思っているし、もし自分が中国語話者であれば、もっと会話が弾んでいたと思うと残念に感じている。だからこそ次に中国に行く際には今より少しでも多く中国語を話せるようになっていたいと感じている。訪中の中で英語を使ってみて、まだまだ自分の知識する不足も実感したので、英語と中国語の両方を勉強し、日本以外の国の文化についての知識を増やしたいと思っている。今回履修登録期間から日本に帰国するまで、5 名の学生と関わってみて、ほとんど全員が人に頼ることが不慣れで自分のタスクを自分だけでやり切ろうとしてしまっていたり、そもそもの自分のキャパシティが分かっていなかったりとお互いにまだまだ成長の余地があるなと感じた。今回訪中に参加してみて訪中が無ければ関わることが無かったメンバーと仲を深めることができ、自分の欠点やこれから成長しなければならない部分を新たに見つけることができた一週間であったと思う。きっと全員が各々の事情を抱えながらこの訪中に参加することを決めて、役割を少しずつこなしていたと思うが何とか最後まで特段の体調不良者や途中離脱者を出すことなく 2024 年の訪中を終えることができて嬉しく思っている。今後、この貴重な経験を忘れることなく、中国や中国文化への関心を持ち続けたいと思う。そのためにも、今回学んだことや自分が体験してみて感じたこと、実際の日本ではあまり見られない文化について、友人や後輩・家族など様々な自分の身の回りの人々に対して共有したい。またそうすることで、今まで中国に興味関心がなかった人たちにも「中国に行ってみたい」、「海外って面白いことが沢山あるみたいだね」といったような日本の外への関心を持ってもらい、海外の良さだけでなく日本の良さについても気づいてほしいと感じた。

最後になりましたが、今回の訪中に関わってくださった皆様に感謝申し上げます。皆様のおかげで貴重な経験をすることができました。本当にありがとうございました。今回の訪中で経験したことを忘れずに、自分の興味関心を深めながら大学生活の中で学んだことを活かしていこうと思います。

訪中を終えて学んだことと「友情」の尊さ

X23C022D 岩田文月

2024 年度地域国際交流 B での中国への渡航を履修から振り返りと現地での学びに分けて記述する。過程の振り返りからは今後のチームでの活動や自身の行動の向上に寄与すると考える。そして地域国際交流 B を通して得た経験、体感した文化など現地での学びは価値観を多様化させこれからに影響を与えたと考える。

冒頭に私がこの講義を履修したきっかけについて記述する。私自身、海外への渡航経験は度々あったがその中でいつも大学や小学校など教育現場に興味を持った。というのも、日本とは異なる国の教育とはどんなカリキュラムなのか、学生たちはどんな生活をしているのかに興味があった。しかし、簡単に見学や施設に立ち入ることはできない。そんな自分にとって又とない機会であった。そして、自分は国を超えて人に会うということをとても貴重に思っている。国を超えたつながりは自分に刺激や発見を与えこれらの経験や出会いが自分自身を成長させると考えるからだ。しかし、現地の人との交流、特に今回訪中でお会いした方々とのつながりは簡単には得ることができない。そんな視点からも自分にとって貴重な機会であった。

まず、全体を振り返り自分の行動を総括すると上手く人に合わせる事ができなかったといえる。後半に向けて周りが見えるようになると行動もそれに伴ったと感じているが周りを見渡せるようになるまでは分担された自分のタスク以外を考え、行動することはできなかった。これらを踏まえて丁寧なコミュニケーションと全体を見渡たすことができれば、よりよいチームワークを基に効果的な活動が行えたのではないかと考える。同じことを再びするのであれば今回より確実に効率よく確実に過程を作れる自信ができた。このような経験を積み重ねることが重要であると感じた。

ここから全体準備、授業、訪問時の順で詳しく振り返る。

まず、履修の決定後、団長が決まりそれぞれに役割を分担する形でスタートした。彼女はよく「分担して効率よくやっていこう」と言っていた。初回の顔合わせ以降、今後の状況が整理できないまま毎週ミーティングが行われた。ミーティングはまだどの様に進めていくかの話し合いが主な内容であった。第一タームの間は週に一回のミーティングを中心に進んでいく中で役割分担を行い、誰がどの担当をするのかを決め進めていった。自分は主に中国までの交通手段を担当した。先生からも助言をいただきながら目的地までの経路を決定した。学生同士では説明するも議論をして決めることはなく私の提案で最終の選択のみ全員という流れであった。その中でも予約段階ではスペルなどのダブルチェックを協

力して行った。負担が集中しないようにと言われながらもこれは自分の担当で他の人はそれぞれ担当を持っていると思いながら取り組んでいた。分担してやる事なので各自担当箇所に集中して共有を行えば良いと考えていた。分担したところをやると強く認識していたことから全体を見渡すことに意識が向いていなかった。今振り返るとこの時点からそれぞれが担当をもちながらも全体を見渡せていれば団長の負担を軽減できたのではないかと思う。

実際の進め方については状況の整理ができず、担当だけ大まかに決まった状態で二タームが始まった。全員で集まることは簡単にはできず、担当ごとでの活動がメインとなった。この頃予定を詰め込んでいたため平日の日中、時間を使っていたインターンを辞めることにしたが日数は減らせても 7 月中は勤務することになりスケジュールは厳しかった。なかなか時間を十分に合わせられない状況があり、全体のミーティングも自分が参加できない日程になったり、オンラインの参加になったりしたことで全体との共有が不十分になった。ここで自分の担当している部分は進められているが他の人の担当していることの状況を十分に把握することができなくなった。全員が予定の多いメンバーであったが早期よりミーティングの予定を固定して必ず集まれる日程を作るべきであったと振り返る。直前になって予定を組んだことから全員が集まることが厳しかったのではないかと思う。いずれにしても全員で集まり状況の共有と問題解決、計画を組むことは最低限必要なことであった。

そんな状態で夏休みに入った。更に全体でのコミュニケーションと共有が難しくなり、特に自分はミーティングがない限りメンバーと話すタイミングはなかった。自分の担当である宿泊施設の予約やその他リスク管理など担当箇所を進める形になった。

8 月の下旬には集中してミーティングを行ったがこの時雰囲気が少し違うのを感じた。焦りもあり少しぴりついた空気で話しながらタスクを進めていた。誰がどこを担当して今何が足りず、追いついていないのかを把握できていない自分は自分の担当といわれたことしかできなかった。他の人は誰が担当するとかではなく気づいた人がやっていない部分をやっているようであった。しかし、複数人で複数の担当をしているようでもあった。6 人が集まっている時は作業の時間より共有や議論など全員いないとできないことを行うなど時間の使い方を有効的にできたかもしれない。

この時点で時間がないからこそ担当を明確にして効率よく取り組むべきだったと振り返る。また、時間の使い方を全員、グループ、2 人、個人で使い分ける必要があったと思う。そのあたりのつけが直前に回ってきた。しおりの修正やお土産の追加購入など前日の夜までバタバタであった。分担を団長がやった後、それぞれの進捗状況と全体のタスクを把握している人が一定数いると計画的な準備が可能であったのではないかと振り返る。

そして改善できた点はもう一つあると考える。情報の共有を随時行うべきであったところと、自分たち学生の中で話を進めるだけでなく、行き詰まったところや悩むところなど積極的に先生方に現状を共有し、意見やアドバイスをいただくべきであった。自分たちだけでは想定できない点や考えが至らない点も多々あることから、早期より先生方と連携し

て準備、計画をすべきであったと振り返る。これができていればスムーズに行ったと振り返るところが多々ある。

続いて授業に関することを振り返る。班が決まって以降それぞれで授業のテーマを持ち寄り決定した。複数のアイデアを持ち寄った中でお正月の文化の違いについて決定した。5月の下旬には3人で話し合い授業の内容と流れを確認した。6月の中旬には授業の構成とスライドの作成の担当、スケジュールを 3 人で話し合い決定した。ここまでは順調であったがその後、スケジュールに遅れが生じた影響でスライドの完成が遅くなった。

その後7月24日の全体ミーティングで授業に関してアドバイスをいただいたため状況が変わった。その後なかなか上手く進めることができず、直前まで完成しない状況に陥ってしまった。結果として最後の段階で大きくオペレーションを変更した。ここでの判断はとても大きかったと思う。当初の雰囲気が良かったところに大きく影響している。

当日は周さんに助けられた。オペレーションを考えたうえでさらに念入りな準備をすべきであったし、中国の講義風景や他の先生の授業をみるべきであったと思う。授業中の表情やけん玉の取り扱いなど至らぬ点も多々ある。しかし盛り上がった点や遊びを楽しんでくれた点成功であったと振り返る。前日の現地での最終確認でも有意義に進められたし、当日も大きなトラブルはなかった。学生たちの楽しんでいる様子やたくさん挙手して答えてくれた点が授業をやる側としてとても嬉しかった。

一方で、自分たちが授業を行うと言う事は初めての経験であった。特に聞く側の生徒たちが普段どのような授業を受けているのか、先生方は何を意識して授業をしているのかなどほとんど知ることなく授業を行った。プレゼンと授業の違いも分かっていなかった。今になって振り返るとその点がすごく残念に思う。授業すると言うイメージを、自分たちが事前に調べることや体験することで、持てるような状況でいれば本番のやり方ももう少しハイレベルにできたのではないかと思う。

自分たちの授業後に他の先生方が授業されている様子を見学する機会をいただいたが、生徒たちにどうやって教えるか、いかに授業の内容に興味を持ってもらうか、非常に工夫して設計された授業内容で、喋り方やアクセント資料など様々なところで意識されており刺激を受ける部分がたくさんあった。今後新しいことに取り組む時、模倣と言う学び方は重要視すべきであると思った。

続いて中国訪問中について記述する。

大きく分けて 3 つの観点がある。一つは訪問中に 6 人の関係性がとても親密なものになった。自分も含め全員がお互いにこれまでの準備などで不満などが溜まっていた。しかし本音で話したり協力体制が強化されたりしたことで関係性が良くなった。一方で予定が空いている時にやるべき作業が多く心身的にも負担が重くなり体力や体調に影響を与えてしまったのではないかと振り返る。時間にメリハリをもち休むべき時にはしっかり休むべきであった。

二つ目は会食についてである。会食のある日の朝から礼儀をしっかりしなければいけないであったり、今日は大事な会食であることやピシッとしないといけないであったり、とても強く何度も言われたため精神的につらい状況になってしまったと思う。自分は比較的大丈夫であったが食事を全然できなかったり、その場にいることが嫌だという状況に近くなってしまったりしたことを残念に思う。事前に礼儀や文化などを学び理解すること良いがプレッシャーになるほど強く何度も教えていただかなくともよかったのではと思う。

三つ目に会計である。元々担当が二人であったが一緒にやって欲しいということでサポートしていた。事前にどのように会計を行うか計画すべきであった。出費の記録が集約できていなかったなど集計するうえでトラブルが多々あった。二人が予算から進めていた関係から自分がすべてやり方を決定することもできず混乱のままやり切ったが立て替えていただいている分もあることや臨時の出費もあることから会計は堂々と構えたうえで余裕をもてるように計画すべきであった。

ここで今後に向けて考えたことを記述する。今回は全員で全体をやるという流れでスタートした。自分は責任者を各所につくってやる方が良いのではと提案したが負担が集中するのは良くないという意見が多数で明確な担当者がつかないままの事が多かった。今回、チームビルディングから遂行までその組み立てや進み方について非常に有意義な学びを得た。今後もチームを作り取り組んでいく事は多々あると思うが、そのような時に今回の経験を生かせるように何がよくて何が悪かったのか何を改善すればよかったのかを明確にし、これまでのことに対して自分なりの意見と考え、そして他の人や先生方が、これまでの過程に対してどのような考えを持っていたのかを認識し、自分なりに整理することも重要であると思った。

ここからは今回の中国への渡航で経験し体感し感じたことについて述べる。

1 つ目は、街のデザインについてである。エリア全体が見事にデザインされており、同じような形をした高層ビル群や道路等中国だからこそできるのではないかと思うような、壮大なエリアデザインがなされていると感じた。日本ではなかなか見ることができない規模感でのエリアの開発なのでとても刺激的であった。これは博物館などの展示から見ても驚くべきものであった。

2 つ目に、中国の学生の優秀なところについてである。人口が多いことも影響しているのか、自分たちが交流した学生は、ハイスペックそのものであるような気がした。勉強すると言うことに対する本気度が根本から違うようにさえ感じた。このような学生に自分たちはどのような強みを生かせば、対等に渡り合えるのか。国外を視野に入れ、自分がどのように学習し、活動し、社会出ていくのかを考える必要性を強く感じた。

3 つ目に目上を敬うという文化についてである。まだまだ表面しか認識していないと感じているが、食事の際のマナーであったり座る場所であったりお土産などからも伝わって

きた。それに加え、実際に現地に行くことで多くの文化を自分の体で体感することができ、日本とは大きく異なる。中国の文化を経験することができた事はとても貴重なことであったと振り返る。

最後にここまでぶつかり合いながらも、多くの壁を乗り越え、無事帰国した仲間、たくさんお世話になった先生方、現地で交流した学生や先生方に感謝の気持ちを示したい。そして、ここまでの多くの経験を経たことに対して自分が成長できたと感じる。訪中に向けた準備は 0 から 1 を創り出したことに近いと思う。とてもカオスであった。苦しみ、ぶち当たり、いろいろ遠回りもした。しんどかったこともあったがそんな過程を楽しめる人になりたいと強く思った。楽しむためには自分はどうなればいいのか。今回の訪中を経てカオスを楽しめる人間になりたいと思った。

そして履修のきっかけであり、目的であった他国の教育を身近に感じことができ、素晴らしい方々にお会いすることができた。交流した大学生はハイスペックという言葉がぴったりで学ぶことに対する姿勢が丸で違ったと感じるほどだった。大学の設備や規模も想像を超えるものでした。小学生も低学年からのオールイングリッシュの授業に驚き、授業に積極的に参加している様子が印象的だった。そんな講義を組み立てている先生方の力量にも感銘した。我が子のように生徒に接し身近な存在でおられた校長先生はとても尊敬する方であった。訪れる前は中国の人に対して必ずしも良い印象ばかりではなかったが渡航中は中国人と感じた瞬間が一度もなかった。

渡航中にお会いした人々は本当に素晴らしい方々ばかりでこの経験もまた自分の人生観に影響していると思う。中国の文化で友を大切にすることに関するものは多いと思った。別れの挨拶はさよならではなく「再見」であり、またのちほど会おうといった意味であるそうだ。友が訪れるときは、出迎え、食事に招き、もてなす。そして次はその友を訪れるといった具合に繰り返す。先生方が再開を喜んでおられる様子は目に焼き付いた。今回、私たちがこのような機会を得ることができたのは渡邊先生のおかげである。先生の様な、先生方のような友情を私も大切にしていきたいと感じた。

【履修登録時から帰国までのグループと「私」の活動】

x 23 c 058e 谷南々帆

去年の国際理解リテラシーで先輩方の訪中のお話を聞いた瞬間から、この授業を履修することを決意していた。すべてを通しての正直な感想は、「こんなに大変だと思っていなかった」。先輩から聞いた話は、料理がおいしかった、向こうの学生と交流した、小学生に授業をした、というどれも楽しい体験談ばかりで、自分もこのような体験ができると思ってワクワクしていた。しかし、実際は楽しさを余裕で上回る過酷な試練ばかりだった。中高の修学旅行とは異なり、一からすべて自分たちで計画を立てた。飛行機、移送手段、予算、観光地の選定、お土産、日程。担当はそれぞれ分けたが、自分のやることが多すぎて頭を抱えた。また昨年と異なり、今年は６人と多く、日程を合わせるのも非常に困難だった。そのため話し合いがなかなか行えず、作業を進めるのにも時間がかかった。そのため、中国に行くギリギリに終わる仕事がグループ全体的に多かったと感じる。（もちろん自分の仕事も）特に自身の担当だったお土産と予算は出国する直前に終わった。

9/16（月）お土産準備

9/15（日）学修室で MT　お土産、予算、授業案交通（立川さんに zoom で協力していただいた）

9/10（火）立川さんから２年生６人に礼儀作法や中国語のレクチャーを教えていただいた

9/18（水）

新潟駅から東京駅。東京駅から成田空港。成田空港からマカオ国際空港まで移動した。
新幹線は指定席であったし、平日の朝早めの時間帯ということもあり、スムーズに新幹線

に乗れた。自分のなかで一番不安だったのは「成田エクスプレス」だ。新幹線の改札からでて駅の看板の案内に従って進んだ。東京駅は人も多く、キャリーも重たくて、成田エクスプレスの改札まで着くのが大変だったが、無事余裕をもって成田エクスプレスに乗れた。

9/18（水）みんなで成田エクスプレスを待っているときに撮った写真

成田空港に着いてからはみんなからお金を集め、元の分を換金した。（パタカはマカオについてからでないと換金できないから）集金したお金は、飛行機のなかで横山さんと封筒別にお金を分けた。何にいくら使うのかを封筒の書いた。基本お金を所有していたのは私で、領収書類はすべて横山さんが保管した。このようにわかりやすく分別したため、支払いの時にとても役立ったと感じる。

→実際の封筒

ゴールデンクラウンチャイナホテルに着いた後は全員で夕食を済ませた。夕食後は次の日のボーダーゲートまでのタクシーの予約を、空港に行って手配した。（交通費として 1 人あたり 100 パタカ集金し、そこからタクシー代を払った）

9/18（水）夕食の様子　　9/18（水）空港のカウンターでタクシーを予約した

9/19（木）

朝食を食べた後、マカオから珠海まで移動した。マカオからボーダーゲートまでの移動は先発、後発５人ずつに分かれた。予約していたタクシーが時間通りに来ないし、２台予約したはずなのに、１台しか来なかった。先発組は先にボーダーゲートに着いたので、タクシーの運転手さんに後発組のタクシーが来ないことを、翻訳アプリを駆使して伝えた。タクシーの運転手さんがどこかに電話をかけてくれて、無事後発組のタクシーも着いた。

9/19（木）後発組のタクシーを待つ　　ボーダーゲートの写真

北京師範大学内キャンパス見学。張軍先生の心理学のキャンパス見学。夜はお食事会。

ボーダーゲートを無事通過し、待ってくださっていた周さんと楊さんに合流出来た。
目の前に広がる光景にとても感動した。自分が思っていような中国とはイメージが異なり、高層ビルが立ち並んでいたり、近未来的な建物が多くあった。

ボーダーゲートから北京師範大学まではタクシーと周さんの車に別れて向かった。さきに到着した２年生２人がチェックインをしてくれたが、間違えてシングル６人（本当はシングル×２,ダブル×２）でチェックインしてしまい。結果２万円ほど多く払うことになった。中国はあまり英語が伝わらない。ホテルのフロントの人も英語が伝わらず、うまく石相通ができなかったのだと思う。次の日に変更してもらえたが、今回の経験を踏まえて、チェックインなどはお金なども関わるので、しっかりと行いたいと思った。

9/20（金）

楊さんと田さんとホテルのロビーで合流し、午前中から普陀寺を観に行った。日差しがとても強く日傘は手放せなかったが、普蛇寺のなかは傘をさして歩くことは神様に失礼にあたるため禁止だった。日本ではお参りするときも境内は普通に傘をさして歩くので、文化の違いを感じて面白かった。博物館のようなスペースでは、歴史や倫理で習った中国で有名な人物の名前を見つけて、中国で実際にその人のことについて学ぶことは感慨深いなと思った。その後は珠海の博物館に行った。無料で楽しめるようなクオリティーではなくて、日本なら有料で入るレベルの充実した施設だった。お昼は「夏湾店」で食べた。本場のミルクティーは甘くなくて、苦い風味だったけどとてもおいしかった。自分で甘い液体をいれて調節したのが面白かった。主食は、メロンパンの生地にチーズとベーコンが挟んであるバンズのようなものを食べた。中国らしくなく、アメリカのような食べものだなと思った。マッサージ見学、オペラハウスを観光した。夜はオペラハウスに行った。去年の先輩が行っていて、自分も行きたいと思っていた念願のオペラハウスだったので嬉しかった。オペラハウスだけあるのかと思ったけど、商業施設や飲食店がたくさんあって、大きなショッピングモールのような感じだった。女子はハンドクリーム屋さんで小さな可愛いハンドクリームを買った。缶のパッケージのデザインがたくさんあって、みんな夢中で選んでいた。またみんなでおそろいのキーホルダーを買った。楊さんや田さん、立川さんたちにプレゼントした。私の中国お土産の中で 1 番気に入っている。物騒な事件もあって、トイレに行くのもみんなで一緒に行動した。立川さんがずっと付き添ってくれて、心強かった。

9/21（土）

次の日は北京師範大学の学生さんと交流した。会場に着くとそれぞれの机の上にお菓子が

置いてあった。向こうの学生さんの英語力の高さを痛感した。交流会を担当したのは A グループだったので、自分は何も言うことはできないけど、もっと私たち側の交流会の中身を充実させるべきだったなと思う。新潟市や新潟県など共有すべき内容はもっとあったかなと思う。向こうの学生さんは、出身地•民族•大学の紹介•中国の食べ物など、ネットで調べても出てこないし、新しい教養として身につけられるような内容の詰まった発表だった。自分の自己紹介では、拙い英語でなんとか紹介することができたけど、もっと上手に発表したかったと後から落ち込んだ。

交流会後は、向こうの学生さんと食堂で昼食をとった。昼食は新大とは全然違くて、お店のフードコートみたいだった。いろんなお店があるし、中国語と読めないので、お店を選ぶのにとても悩んだ。向こうの学生さんが、何食べたいの？辛いのは食べれる？と優しく英語で話しかけてくれて、とても助かった。私はまいさんとシェアして、ルーローハンのようなものを食べた。向こうの学生さんに辛くないと言われて買ったが、めちゃくちゃ辛かった。「何も辛くない」といいながら食べていて、圧倒された。自分は辛いのに強いタイプだと思っていたけど、中国人には比べものにならないのだと感じ、ここでも異文化を感じた。

昼食後はショッピングモールの中のカラオケに行った。中国のカラオケはクラブみたいな雰囲気で（日本で行ったことはないけど）日本の簡易的な感じとは違って、内装にこだわっていてテンションが上がった。部屋には目の前にでっかいスクリーンがあって、トイレも付いていた。水を頼むと、無料で飲めるのが面白かった。世界に一つだけの花や残酷な天使のテーゼやドラえもんの歌を向こうの学生さんが知っていて、一緒に盛り上がれたことが嬉しかった。また私の好きなティラースイフトの「cruel summer」やワンダイレクションの「What makes beautiful 」で一緒に盛り上がった。英語は万国共通だと実感できたし、一緒に英語で歌って盛り上がれたのが本当に嬉しかった。英語をもっと頑張りたいと思うきっかけにもなった。カラオケの後はショッピングをした。おすすめの下地とキープミストを買った。帰国してからずっと使い続けている。可愛い洋服屋さんもたくさんあった。私が欲しそうに見ていたら、気づいてくれて、試着してみる？と話しかけてくれて、店員に交渉してくれたり、会計まで一緒に付き添ってくれた。ほんとに優しさを感じた。雨が降っていて外での活動はできなかったけど、結果的にカラオケなどで距離を縮めることができたと思う。

この日は大切な食事会があった。「しっかりしないとだめだ」というプレッシャーで押しつぶされそうだったが、素晴らしい会場で会食という文化を体験できた。周りを見て、お茶を注いだり、お茶を注いでいただいたら指でコンコンとしたり、回転を止めたり、話を考えたり、食事を楽しめる余裕はなかったけど、この機会でないと関われないような方々と交流できて嬉しかった。交流会で 1 番お土産が心配で、当日いきなり知らない先生が来られていて、想定内ではあったが、会場に着いたらすぐ食事が始まってしまってみんなと相談できないこともあったし、「誰に何をあげるのか」をメモしていたのは私だったし、深く

お土産に関わっていたので、無事に渡せるかとても不安だった。他の人に、「メモが間違っている」と言われて、正直私だけに任せないでほしいと思う節もあったが、無事お土産も渡せ、会食にそろった全員を意識してお話したり、乾杯したりする文化を経験するいい場になった。

9/22（日）

次の日は高速鉄道の駅の近くで、朝から早茶をご馳走になった。ここで食べたえび小籠包みたいなものが中国で 1 番美味しかった。お茶もすごく美味しかった。早茶を食べるまで、お店の中を探索した。小さな水族館みたいで、エビや貝などが水槽に入っていた。吊し上げられた鶏は少し怖かったけど、見たことない光景が広がっていてそこにいるだけで楽しかった。その後は急いで高鉄に乗り換えた。はるなさんと私のパスポートがなかなか反応しなくて、改札を通れないかとヒヤヒヤした。高鉄の中は新幹線のような感じだった。乗り心地が良くて快適で寝てしまった。高鉄に降りた後、周さんと合流し、バスに乗ってゴルフホテルに向かった。周さんおすすめのタピオカをウーバーしてくれて、部屋で飲んだ。中国のタピオカはいっぱい 300 円くらいなのに、量も多くて美味しいのに、日本は小さいサイズでも 500 円ぐらいするから、中国の人は羨ましいなと思った。ホテルで少し休憩した後は、翌日の授業に向けて南奥実験学校に向かった。学校の校門のパネルに歓迎のメッセージが書かれていて嬉しかった。ニモ先生と王嘉先生が迎え入れてくださって、学校の中を見学した。グラウンドやバスケ•バトミントンコート、食堂、宿舎、日本の小学校にはないものばかりで新鮮だった。6 年生の授業の打ち合わせにはニモ先生がついてくれた。ニモ先生は英語がペラペラで発音も綺麗だし、ゆっくり話してくれるし、とても助かった。電子パネルに自分たちのスライドの pdf を入れたり、グループ編成などについて、ニモ先生と相談した。本来は英語で授業を進める予定だったけど、電話を介して担任の先生から英語だと理解できないかもしれないと言われ、急遽日本語で授業をし、周さんに翻訳してもらうことにした。夜は素敵な食事会場で会食をした。王嘉先生が選んでくれたお店だった。食事が始まる前に周さんがお茶の淹れ方を教えてくれた。なんでもできる周さんがとてもかっこいいと思った。その後ショッピングモールに行った。外装のイルミネーションがとても綺麗だった。夜は部屋に戻って、授業準備に備えた。かるたを切り終わっていなかったので、はるなさんと作業を終わらせた。あとは数日まとまっていた会計も整理した。

9/23（月）

授業をする前に、月曜日の朝礼である旗揚げ式を見た。小学生 1 年生から 6 年生までが、元気に行進している姿は可愛らしく、とても印象に残っている。貴重な経験を見させてくださった校長先生に感謝でしかない。授業前も授業中もずっと緊張していた。B グループは細かい原稿を特に決めず、話す内容だけをしっかりと決めて授業に臨んだ。そこは当日の流れや想定外の事態に備えて柔軟に対応できたからよかったと思う。またかるたや福笑い、けん玉の遊び方を動画で見せたのは成功だった。しかし反省もたくさんある。あまりの緊張にずっと前に 3 人で立ったままだった。1 人が話して、他の 2 人はみんなの様子を

みたりするべきだったと思う。また「これから何をするのか」「何を学んだ欲しいのか」がもっと伝わるような構成にすべきだった。遊び方は動画で見せたが、正しいけん玉の使い方などは説明できず、けん玉を振り回したりする子もいたため、安全性には考慮すべきだったと思う。しかし全体的には、小学生たちも楽しんでいてくれたのでよかった。
昼食は学校の給食をいただいた。校長先生とご一緒に食べた。最初は同じ机に校長先生がいて緊張して誰も話しかけることができなかったが、校長先生自ら翻訳アプリで話しかけてくれて、そこから翻訳アプリを介して会話をしながら昼食を楽しめた。昼食後は校長先生が宿舎を実際に案内してくれた。小さな子供に話しかけられたり、ハイタッチをしたりした。その後は、バスに乗って図書館や北京路を観光した。北京路は初めて地下鉄を乗ったが、周さんや立川さんのおかげもあってスムーズに移動できた。夜は素敵な食事会場で会食をした。あんなに大きなフォアグラを食べたのは初めてだった。南奥実験学校の先生方はみなさん非常に暖かくて、親切で、最後の食事会が南奥実験学校の方々とご一緒できて本当に嬉しかった。帰ってからは溜まった会計を横山さんと岩田さんと計算した。南奥で乗っていたバス代金を、すっかり忘れていて、計算が複雑になってしまった。お会計ごとに必ずメモや写真に収めておくことが大事だと改めて感じた。

・「どうやってやるのか」をもっと詳しく説明すべきだった。
・前に３人立っていた。１人が話して、他の２人はみんなの様子を見るべきだった。
・動画を見せたのが成功だった。（かるたや福笑い、けん玉など）
・「これから何をするのか」「何を学んでほしいのか」かがもっと伝わるような構成にすべきだった。
・「学んだものをどうすればいいのか」わからなかったと思う。
・子供たちはそれなりに楽しめたのでは？
・流れ的にはよかった。アドリブでやってよかった。結果的に大成功だったのでは？
・けん玉の説明はきちんと説明しておくべきだった。安全性は考慮すべきだった。

・観光よりも授業の見学などに時間を割けば、よりよい時間（もしくは授業）になったと思う。

9/24（火）

次の日は朝からボーダーゲートを超え、バスに乗り、レールウェイのようなものにのってゴールデンクラウンチャイナホテルを目指した。天気も悪く、大きな荷物を持っての移動で、日本人ということもあり、無事に辿り着けるか不安だったが立川さんが事前にいろいろ調べて下って、無事辿り着けた。ホテルに荷物を預け、マックで昼食を済ませた後は、カジノのあるホテルにシャトルバスで向かった。マカオなのに、イギリスの街並みがあったり、たくさんのカジノが並ぶ光景は素晴らしくて、迫力に圧倒された。夜はみんなで集まって、反省会兼お疲れ様会をした。ここでみんながそれぞれに対して感謝を述べた。と

てもいい会になった。

9/25（水）

次の日は朝早くから、フライト出発に向けて準備した。無事飛行機まで乗れたが、まいさんの SIM カード事件もあったが、無事みんなが無事に帰国できてよかった。

〈自分の担当の反省点〉

【お土産】

・お土産をもっとはやく準備しておくべきだった。渡邊先生や先輩方からお土産をあげる先生の情報を聞き出しておき、その先生にあったお土産を準備する。包装は赤いい。中国で縁起の良い色だから。プラスチック包装のお菓子は好まれない。上下関係が厳しいので、全員の先生に同じお土産をあげるのはさける。誰に何をあげるかを考えるよりも、先に値段を設定してからお土産を選定する方が良い。例えば、校長先生には花火パイ、トートバック、鴇のお米二合、サラダホープ。普通の先生には、花火パイ、百均のグッズなど。金額も大切だが、相手を思いやる気持ちも大事。その先生が好きな日本のキャラクターや食べ物があればそれをあげるといいと思う。

【授業】

はやめにテーマは決めるべき。原稿よりも先にスライドを作っておいた方がよい。またどの言語で授業を行うかもしっかりと事前に確認すべき。内容や言葉の言い回しが難しいと小学生が理解できないから、いかに簡単にわかりやすく伝えるのかが大切だと思う。当日は想定していた流れとは異なり、臨機応変に対応するような感じだった。そのためがっちりと原稿を考えるよりも、伝えたい内容だけを絞っておき、当日の流れに対応した方が良い。がっちりとした原稿や流れを考えるのはよいが、想定外の事態に対応するのが難しいことを痛感した。話が長いと飽き始めるので、体験型活動を導入した授業にして正解だった。私たちはテーマがお正月だったので、「かるた」「けん玉」を実際に体験してもらった。とても喜んでもらえた。

【予算】

・予算は早めに見積もっておく。今回は北京師範大学のホテル（国際交流会館）に宿泊したさいに、最初のチェックインで（シングル×２、ツイン×２）で考えていたのに、シングル×６になってしまい、２万円ほど無駄になってしまった。中国は意外と英語が伝わらないので、なにを言っているのかがわからず、その場の流れに任せてしまいそうになるが、チェックインなどをする際にはしっかりと確認をしておくべきだ。今回は手配していただいたホテルの料金の詳細が当日までわからなかったこともあり、多めに予算を見積もったが正解だった。想定外の事態に備えて予備費を用意しておくべき。一番予算で苦戦したのは交通費だった。特にタクシー移動。おすすめは「高徳地図」という中国の地図アプリをインストールして、出発地点から到着地点までいくらかかるのかを事前に出しておくとよいと思う。会計は谷・横山だった。現金所持つ担当と、領収書を持つ担当を分けた。これ

は非常に正解だった。何にいくら使ったかは、随時メモをしておく必要があった。写真もとても役立つ。学生だけでなく、先生方の分も込みで払う場面も多々あり、その時の計算に苦戦した。お小遣いは去年のしおりを参考にし、４００元を換金した。ちょうどよかった。マカオは 300 パタカ換金したが、少し多かったかなという感覚。全体的に多かった。

【交通系の予約の手配】

・新幹線の予約の手配。乗車時間は事前にみんなで検討し、松山さんに支払いをお願いしていたので手配もスムーズだった。しかし一番大変だったのは成田エクスプレスと高速鉄道の予約だ。誰も成田エクスプレスのことを詳しく知らなかったので、私と関原さんが実際に新潟駅の窓口に行って予約方法、乗車券など係員の人に聞いたりした。国内の移動の支払いは１人にまとめることにし、松山さんにお願いした。高速鉄道の予約は昨年の先輩を参考にさせていただき、trip.com で予約した。一度に５人までしか予約ができないなど、昨年より人数が多いことで手間がかかることも多々あったが、岩田さんにお願いしてなんとか予約することができた。

〈覚えておきたい知識〉

【食事会】

・お茶を入れていただいたとき（目上の方）は人差し指と中指をまげて机にこんこんする。同学年の人やお店の人に入れていただいたときは。人差し指と中指を伸ばした状態で机にとんとんする。

・誰かが料理をよそっているときは、回っている机を手で止める。

・お茶は偉い先生から順についでいく。たとえお茶がいっぱい入っていても、相手に敬意を示すために少しでもいいからつぐ。

・ただのお食事会ではなく、交流であることを自覚し、緊張しても無言で食べない。積極的に自分から話の話題を振ったり、会話に参加する必要がある。

・乾杯したときは持っている容器に入っているものをすべて飲み干す

【うまくいったこと】

・南奥実験学校での授業。

去年のしおりの４年生の先輩方の体験談やスライドを参考に、グループ B のメンバーでテーマ決めを行った。テーマを決めるときに意識したことは、どのような内容なら興味を持ってもらえるか、日本の文化を楽しく伝えられるか。最終的に「お正月（新年)」をテーマにした。決め手は新年の時期か異なるところが面白いと感じたから。はじめから、私たちが一方的に話す授業ではなく、生徒たちとコミュニケーションを取った対話型にしたいという思いがあり、必ず体験要素を取り入れようという話にまとまった。中国に行く直前に急遽体験型の「福笑い」を変えることに非常に焦った。なにより自分が福笑いを提案したので、授業に対する自信を失ってしまった。しかし、9/13 の MT での４年生の先輩方、立川さん、先生方の助言や同じグループの岩田さん・横山さんのアイデアだしに支えられ、かるたとけん玉を体験してもらうことになった。結果、大成功だった。事前段階では、小学生に英語で授業をする予定だったが、授業の前日に担任の先生から英語が十分に理解できないかもしれないと言われたため、英語から日本語に変更。周さんのお力をお借りして、日本語を中国語に翻訳してもらう形で授業を行った。当日は想定していた流れのようには進まず、臨機応変に対応し、やることの順番を変更した。私たちのグループは原稿をかっちりと決めず、話すポイントだけを整理し、当日の様子を見ながら話そうという風に決めていた。これのおかげで当日柔軟に対応することができた。体験では「かるた」「けん玉」をやってもらった。かるたは各グループに配る段階で、準備ができておらず、かなり焦ったが、岩田さんが柔軟に対応してくれたおかげで、うまく対応できた。またかるたに使った日本語は、スライドのなかで一度出てきた言葉を使用したが、周さんに「一度見た海外の言葉をあなたたちはすぐに覚えられますか？かるたうまくできるの？大丈夫？」と言われ、確かにその通りだと思い、自分たちの想定の甘さを感じた。しかし、周さんが日本の言葉をうまく中国語に翻訳してくださったおかげで言語の壁を超えて、にほんの伝統の遊びであるかるたを楽しんでもらうことができた。「けん玉」は小学生がとても興味を持ってくれて、向こうの担任の先生がしきってくださったこともあり、みんなで３・２・１という掛け声の後、成功できるかどうかを対決した。どちらの遊びも周さんのサポートのおかげで言語の壁を超えて楽しんでもらえることができた。感謝しかないです。本当にありがとうございました。

→異国での授業の成功は、私の自身に繋がった。また臨機応変に対応できるような姿勢の大切さを学んだ気がした。作った原稿を読み上げるだけでは相手には何も伝わらないが、自分の伝えたいことを整理しておき、その場に応じて伝える。非常に大切なスキルだと感じた。

【うまくいかなかったこと】
・訪中の準備があるのに直前の期間に 4 週間連続週 5 バイトをいれてしまい、身体的疲労に加え、訪中のプレッシャーやストレスで精神的にも追い込まれてしまい、9/13 の先輩方や立川さん、先生方との最後のミーティングに出ることができなかった。大事なミーティングであることはわかっていたのに、自分のスケジューリングの立て方を完全に誤っていた。
→今回に始まったことではなかった。自分が今一番何をする必要があるのかをはっきりとさせること。そしてそのやるべきことにしっかりと向き合い、それ以外の予定は詰め込みすぎない。自分の場合、バイトの回数を減らす、重要な予定を詰め込みすぎない。あとはしっかりと睡眠時間を確保すること。

・自分の仕事を抱え込みすぎた。授業班のリーダー、会計班、お土産など。抱え込みすぎた結果、頼まれた仕事が間に合わなかったり、締め切りギリギリになってしまった。結局みんなに迷惑をかける形になってしまった。
→できないことを無理して引き受けない。なんでも「大丈夫」と言わない。

【全体の反省点】
副団長をはやめに決めるべきだったと思う。まいさんに仕事の負担がかかりすぎた。誰がやるにしても、それぞれの担当を決めて責任を持つべきだった。そうすれば責任が加担しなかったと思う。役割分担が、途中で変更になったり、メンバーが新たに加わったりしてあいまいになってしまった。結果途中からここの担当誰だっけ？のような混乱が起こり、責任分担が傾いてしまった。そういった意味で、6 人でもっと歩幅を合わせるべきだったと思う。大事な MT の日に旅行に行く人もいたし、みんなで予定を決めたのに後から余裕で予定を入れる人もいたし、自分もそうだがバイトを詰め込みすぎて周りの予定になかな

か合わせられない人もいて、そもそもみんなで集まって、対面で話し合えたのは、出発前の１週間前からのようだった気がする。自分のことに精いっぱいだった。ＭＴの回数が効率を求めすぎていたし、もっと MT の回数を増やすべきだった。６人それぞれやりたいことが多いのはわかるし、その結果日程が合わせられないのもしかたがないが、もっと１人１人が授業であるという自覚をもち、誠意をもって臨むべきだったと思う。準備段階で６人の関係値をもっと深め、頼るべきところは頼る。姿勢も人によっては必要だったと思う。MT や話し合いに参加できなかった人は、LINE のトークを通じてしか情報が得られず、誰が何をやっているのか、今何をすすめているのかを全体的に見ることができていなかったと思う。また「なんとかなる。絶対成功する。」ではなく、不測の事態に備えて細かい部分への配慮も大切だった。しかし今回の活動を通して自分自身の特性。足りない部分。を感じる大切な機会になったと思う。今回の経験を通じての自分自身の成長にもつながった。

訪中振り返り　最終レポート

X23C064K　松山智紗

1　準備期間を振り返って

まずこの国際交流 B を履修登録したことを振り返る。一年生時の国際理解リテラシーにおいて、先輩方のお話を聞いたことがきっかけだった。中国に行く機会など、この授業に参加しなかったらないだろう、そして中国の文化を実際に体験してみたい、現地の小学生に授業を行いたいという思いから履修した。とくに「小学生に授業を行いたい」という思いが強く、日本文化をどのようにすれば最大限楽しんでもらいながら伝えることができるか、国際理解リテラシーの授業を聞いた後から考えていた。

＜全体としてのふりかえり＞

大きな反省点として「ミーティング回数の少なさ」が挙げられる。ガイダンス等で集合したメンバーはみんな知っていて、話したことのある人、仲のいい人ばかりであった。そしてこの認識はメンバー全員が持っていた。このような認識が、今回の反省点である、「ミーティング回数の少なさ」にもつながったと考える。ミーティング回数が少なかったことで、仕事量の偏りや得意分野を活かしたような役割・タスク分担をすることができなかった。

「ミーティング回数の少なさ」の原因について考えていく。先ほど記したように、お互いがお互いを知っているという認識も原因であるだろうが、他にもやることの多さからくる漠然さを原因の一つとして挙げることができるだろう。行程表などメインのタスクはもちろん、授業や交流会・会計や LINE の対応など、ここでは挙げきることのできないほどのタスクがあった。考えなければならないこと、決めなければいけないこと、それらの多さ・大きさの壁に皆立ち尽くしていたともいえる。何から手を付けてよいのか皆分からず、できたことだけが見えていた。できたことだけ見て、よし大丈夫だと安心していたようだった。

次に、この「ミーティング回数の少なさ」という反省点から次回どのように工夫・改善するべきかについて考える。大きな改善策としてはミーティング回数を増やすことである。そして「やることの多さからくる漠然さ」ということに対しては、やらなければいけないこと・決めなければいけないことを早いうちにリスト化し、終わったことにチェックをつけていくなどして、全体の見える化を行えばよいのではないかと考えた。また、リスト化することで「これできそうだから私やるよ」「これ得意だからやっておくね」などの協力が、今回よりもさらにできるだろう。これらは最初に挙げた「仕事量の偏りや得意分野を活かしたような役割・タスク分担をすることができなかった」という反省点の改善にもつながる。

全体としての、準備期間における授業についてふりかえる。反省点は、準備初期段階に

おいて、南奥実験学校とのコンタクトが不足していたという点だ。これにより、直前での大幅変化がどちらのグループでもあり、かなり苦労した。どちらも小学生にとってはよりよいものとなり、結果的には良いといえるが、作った側のメンタル的には辛いものがあった。では、早いうちから授業計画案を作成し、スライドや原稿もでき次第南奥実験学校側に確認をとってもらっていれば、このようなことは発生しなかったのではないか。次回この反省点を活かして、相手側との確認の連絡をしっかりと取る、相手側のニーズを 100%理解し、授業に反映するために積極的に連絡をとることが改善につながる。

最後に、皆が大変だったと思っているだろうお土産についてまとめる。反省点はいくつか挙げられるが、一つ目はリスト化・選定が遅かったことである。他の仕事に追われていて、お土産について動くことがとても遅くなってしまった。その結果、出発日の前週に慌ただしくお土産を用意する結果となってしまった。二つ目は、情報不足である。例えば「包装は赤がいい」「安く見えないラッピング」「中身が見えないラッピング」「先生の数と好みや性別」だ。これらを先輩方や先生にお聞きするのが遅くなってしまい、お土産の用意もさらに遅くなり大変になってしまった。そして、後にも書くが余分をもっと多めに持っていくべきだった。どんな状況になっても対応できるようにしておくべきであったと考える。また、最終的にお土産にかかった費用が、予想よりもかなり多くなってしまったことも反省点のひとつである。これらの反省点を改善するために、「もっと早くからお世話になる方のリスト化をする」「中国において贈り物のよい渡し方について調べる」「内容を予算と照らし合わせてよく考える」ことが次回工夫できるだろう。

＜個人としてのふりかえり＞

まず大きな反省点としては、私が大きく仕事に押しつぶされることはなかったということだ。他の人に仕事量が偏ってしまい、私にできることを進めたつもりではあったが、結果として仕事量の偏りはあまり改善されなかった。仕事という面ではもちろん、精神的にもサポートできていたら良かったと今になって感じている。そこで、次回同じことがあれば、自分のできる仕事を率先して他の人の分もやることだけでなく、精神的にもサポートしていきたいと考える。

次に私はポジティブ思考で、物事を進めるときに「必ず成功できる」という考えからスタートするので、細部まで検討することができていなかった。例えばリスク管理について、どのようなことが起こっても対処できるように準備できていなかった。タクシー二台のうち一台だけが来ない、空港で預け荷物が行方不明になるなどの事態にとっさに対応することができなかった。また、授業においても子供たちがどこまで英語を聞いて見て理解することができるのか、どの程度話すことができるのかリサーチ不足であったように感じる。これらのことから、「必ず成功できる」ではなく「必ず成功するためにはどうするか」という考え方をもとに今後活動していきたい。

最後に、前から入っていた予定によって訪中の前週に新潟にいなかったことも個人の反省として挙げることができる。語学研修合宿に行くことで、中国で英語を話すことに役立つのではないかという気持ちが先行してしまい、重要な期間に皆と対面でミーティングに参加できなかった。オンラインで全てのミーティングに参加し、自分の終わらせなければならない仕事もやり切ったが、それでも対面で集まることができなかったことは、皆に大変な迷惑をかけた。このように個人の利益を考えて動くのではなく、全体としての利益を考えながら行動ができるように今後していきたい。

＜学んだことや今後に活かしたいこと＞

国際交流 B の授業でこのような長い期間準備をしたことは私にとって、とても良い経験であった。六人で協力しながら、そして教員やサポーターの人と連絡を取り合いながら、多くの活動をしたこの準備期間は辛い部分もあったが、自分のためになるものであった。小学生への授業準備、日本文化の説明、三ヶ国語を入れたスライドの作成など初めてのことだらけだったが、これらの活動は全て今後に活かせると考えた。一見終わるか怪しい訪中計画も、試練は多々あったがみんなで乗り越えることができた。仕事分担の大切さや、相手への思いやりというチームに関することだけでなく、英語を用いた授業、海外での移動手段、渡航手順など今後海外へ行くときにとても参考になることを学ぶことができた。また、準備期間で立川さんから中国の自己紹介や挨拶なども学んだ。立川さんが録音してくださった音声を何回も聞いて、自信をもって発音できるようにした。この経験も、中国の方と今後関わるようなことがあれば活かしたいと考える。

2　訪中期間を振り返って

＜交流会について＞

私は交流会を主に担当し、準備を進めていた。授業や他の準備に追われて、交流会の準備ができたのは直前になってしまったが、学生同士楽しめたという点では大成功だったように思う。

はじめに交流会の反省点についてまとめていく。一つ目は、新潟大学側の大学紹介の時間が短かったことである。私たちが五分程度であったのに対し、中国側は各学生の故郷の紹介も交えつつ行っており、合計したら二十分ほどあったのではないだろうか。Wechat 上で「大学紹介をお互いにしたい、五分程度で」という旨を送ってはいたのだが、英語のニュアンスが間違っていたのかもしれない。もしくは、もっと説明したいと思ってしてくれたのかもしれない。これについては、大学紹介を長めに用意しておき、必要に応じて削るという形にすれば改善できるのではないだろうか。二つ目は、中国の学生が用意してくれたお菓子の量に対して、私達が持っていったお菓子の量がかなり少なかったことである。ハイチュウとキャラメルだけだったが、スーツケースの中にはもっと用意があった。これは、後の食事会のためになるべく予備分を残しておいた方がよいのではないかと心配にな

り、少しだけ持っていったからである。（結局南奥で必要になったので余分に残しておいて良かった）やはり、お土産や日本のお菓子はいくら沢山持って行っても困らないので、次回このようなことがあれば余分の余分程度のお菓子を準備していきたい。三つ目は学生と活動する時間が少なかったことである。さらにいえば、一緒にいようとする努力をしなかった。例えば「夜ごはん食べ終わった後時間ある？」とか「朝どこかにいく？」などの“次”の約束をすることができなかった。英語が伝わるかどうか不安だったということもあるが、楊さんや田さんにもっと頼って伝えていればよかったと思う。学生との時間が取れなかったという反省に対して、「一緒にいる、次の約束をする」ために積極的に行動することが改善につながると考える。

次に良かった点についてまとめる。大きくまとめると学生同士全力で楽しめたという点が良かった。はじめはかなり緊張していたが、自己紹介は「それ知ってる」「私も好き」などの雑談も交えて行うことができた。そして、お土産交換タイムを早めに行ったのだが、これが大成功であった。一人一人がお土産を持って学生のところへ行き、お土産を交換した。その際にお土産という最高のトークテーマがあったため、英語での会話はとても緊張すると言っていたが、皆盛り上がっていた。そこから好きなものや趣味などの個人の話を聞いたりして仲を深めることができた。そして、その後は学生だけで学食へ行き皆でお昼ご飯を食べた。その際、向こうの学生にどれがおすすめか教えてもらいながら選んだ。最後はショッピングセンターに行き、カラオケとショッピングを楽しんだ。カラオケではお互いの国の歌を歌ったり、洋楽を一緒に歌ったりした。日本にいて、大学の友達と遊んでいる感覚と同じだった。そこがとても良かった点だと考える。自分の英語が伝わり、相手の言っていることが理解できて意思疎通ができたことがとてもうれしかった。

＜授業について＞

様々意見はあると思うが、私は大成功だと考えている。まず準備から始まり、本番大きなミスなくやりきれたことが大成功といえる理由である。前日はとても緊張し、着付けの時もとても緊張していたが、いざ始まる私自身も楽しんで活動することができた。良かった点は、子供たちの反応や取り組みへの集中が良かった点である。B チーム（けん玉やカルタ）と比べてゲーム形式ではないので、大きく熱く盛り上がる形ではなかったが、工作への熱意で風鈴なりに盛り上がっていた。加えて、ほとんどの生徒が風鈴を完成させた点である。半分以上できれば良いだろうと考えていたが、実際ほとんどの生徒が完成させていたので驚くと同時に嬉しかった。また、短冊の部分に願い事を書いてもらったのだが、一部の生徒が「こんな願い事を書いたよ」と英語で教えてくれて、とても嬉しかった。

次に反省点・改善点についてまとめる。反省点の一つ目は私たちの説明があまり伝わっていないようだった点だ。理解している子は相槌を打つなどして聞いていたが、英語理解のスキルに差があるのかもしれない。原稿もなるべく簡単な英語になるように修正を行い、どうしても難しい英語になってしまう部分は立川さんにお願いをして、中国語で説明してもらった。それでも伝わらない部分があったと考える。これは、事前にもっと連絡をとり担任の先生に原稿やスライドを確認してもらっていれば改善できたのではないか。二つ目は、風鈴作りの細かな説明が英語でできなかった点だ。紐を「くくる」「結ぶ」「穴に通す」などの専門的な英単語を覚えていかなかったため、説明が非常に難しかった。単語だけでも覚えて、生徒たちが理解しやすいようにするべきだったように思う。これについては、必要な単語を整理しある程度覚えていくことでより良い授業になると考えた。

＜国際交流・異文化理解に関して得られたこと＞

ここでは中国訪問の期間を通して、得られたこと、学んだことについて大きく三つに分けてまとめる。一つ目は、食事の文化についてである。期間中、夜は多くの食事会にお招き頂き、初めての中国料理を食べ、食事マナーについて学んだ。その中で、食事の前に自身でお皿を洗うという習慣に驚いた。これはお皿が汚いということではなく、このような場では洗うことがあたりまえなのだと聞き、回転するテーブルをはじめとして日本との違

いを学ぶことができた。また、食事の際には白酒（パイシュ）という度数が非常に強いお酒を飲む習慣があり、乾杯の掛け声に合わせて参加者全員で飲んだ。日本にはない習慣で、白酒も飲んだことのない味であったがフルーティな匂いがしておいしかった。二つ目は、初日と最終日の滞在先であるマカオの文字表記についてだ。写真は空港にあった看板だが、中国語はもちろんのこと英語や韓国語、そして日本語とポルトガル語が書いてあった。これは空港に限らず、街中の標識についても同様であった。特に驚いたことが、英語よりもポルトガル語が浸透しているようであったことである。街中の表記は英語がなく、中国語とポルトガル語だけのものも多くあった。英語が第二言語だろうと考えていたが、英語が伝わらないことが多く、苦労したことも一つの学びを得ることができたといえる。三つめは人々の様子だ。日本のメディアにおいて、中国は悪く取り上げられることが多く、日本人の多くが中国に対して良いイメージを持っていないように感じる。私自身も悪くは思っていなかったが、同様に良いイメージは持っていなかった。しかし、訪中期間を通して色々な人と関わり、色々な人を見てイメージが変わった。日本に対して悪く思う人は、おそらくごく一部であり、多くが非常に活発で親切であった。ショッピングや交流会、授業を通して特にこれを感じた。皆が私たちを受け入れてくれているように感じた。そして人だけでなく、建物や景観も一つ一つが素晴らしく、特に観光したスポットにおいてはそれぞれに歴史や信仰的なものを感じ非常に感動した。このようにメディアから得る情報は偏りがあり、すべて正しいことはなく、そのイメージに流されないことが重要であると学んだ。ただ実際に体験しないと私自身ももとのイメージを払拭することはできなかったので、これは非常に難しいことである。

３　全体を振り返って

＜訪中を終えてみて、自分にとって訪中はどんな経験となったか＞

　準備期間、訪中期間すべてを含めて非常に良い経験であった。準備期間については上記にもあるように、チーム皆で試練を乗り越えたことや、仕事分担の大切さ・相手への思いやりという初期的なことについても改めて重要性に気づいたことが、自分を成長させた。訪中期間では、初めての海外ということもあり、見たもの食べたもの全てに感動し学びを

得ることができた。そして、食事や生活における文化についても実際に体験しながら学ぶことができた。失敗や反省点も多くあったが、それも自分にとっては学びであり、もう一度同じ中国訪問を行うことはできないが、それら反省点を改善するために検討したことも私を次の機会へと大きく成長させた。

＜準備期間と訪中期間どちらも含めた、自分の役割についての改善点＞

もしもう一度やり直せるのならば、多くのリスクや細かなポイントについて考えて授業や交流会、お土産について考えるべきであった。出発してからの期間では、想定よりも準備時間をとることができなかったので、事前の準備期間で完璧以上にしていくべきであったように思う。

４　みなさんへの感謝

チームの五人、そしてサポートしてくれた立川さん・周さん、渡邊先生・田中先生・堀籠先生、皆さんに感謝しています。

この五人でなければ成功できなかったし、沢山迷惑もかけたけど皆とこの地域国際交流Ｂを履修できて本当に良かったです。皆で頑張って、成長して、作り上げたこの期間は絶対に忘れられません。各々に言いたいことや感謝が沢山あるので、またの機会に長々とお話させていただきます。

そして立川さん、周さん、お二人がいなければ私たちは中国で路頭に迷っていました。事前の準備期間でも沢山お世話になり、沢山助けていただきました。どのような質問に対しても丁寧に対応して下さり、本当に心強かったです。中国語で話している姿が本当にかっこよくて、通訳をしている姿も本当に素敵で、私も中国語に興味が湧きました。また、訪中期間でお二人と少し仲良くなれた気がしてとても嬉しかったです。私たちを最後まで引っ張って下さり、本当にありがとうございました。

最後に先生方、まずこのような素晴らしい機会を下さりありがとうございます。初めての海外、授業、食事会、全てが新鮮で全てがとてもよい経験です。事前期間にも多くのミーティングに来ていただき、アドバイスを頂けたことで訪中期間がより良いものとなりました。私たちを見守り、時には助言をして助けていただき本当にありがとうございました。

私にとって、準備期間を含むこの訪中期間はとても有意義で、私も大きく成長できたように感じています。このような機会を下さった先生方、サポートしてくれた方々、私達を快く受け入れてくれた中国の先生方、頑張ってきたチームの皆、この訪中に関わっていた全ての人に感謝しています。本当にありがとうございました。

## 訪中最終レポート

X23C037B　横山晴菜

1.準備期間を振り返って

この授業を履修した時の思いを振り返ると、去年の国際理解リテラシーで先輩たちの話を聞いて単純におもしろそうだなと思ったことが始まりだった。国際理解リテラシーで異文化を知ることの楽しさも知って、国を越えて交流するという体験を味わってみたいと思った。私は今まで留学しようとか、海外に行きたいと思ったことがあまりなかったのに、こんなにもやりたいと思えた自分の気持ちを尊重しようと思い、履修することに決めた。

それからは想像以上に忙しく、自分たちだけで一から役割分担し、計画し、実行していくことの大変さを痛感した。良かった点としては、団長が毎回のミーティングごとにテーマを決めてくれて、そのおかげでその日話し合うべきことが明確になりスムーズに話し合いが進められたことだ。テーマに沿って話し合いを進め、メンバー全員が責任をもって自分の役割を全うしていたと思う。私は初めての海外で初めての経験だらけだったが、私たちは私たちなりにどうやったらうまくいくかを試行錯誤した日々は充実した時間だった。授業の準備でも、テーマ決めから内容を練りどうやったら楽しく日本の文化を学んでもらえるかを考えながら授業グループの３人で協力して準備することができた。準備期間では協力することやコミュニケーションをとることの難しさを痛感したので、今後誰かと協力して何かを成し遂げる時には負担が偏らないように、誰かの負担が大きすぎると感じた時には声をかけあって、そういう時こそ仕事を分担して進めていきたい。このように考えた根拠として、準備期間に経験したことを反省点として３つ挙げる。

１つ目は、メンバー間でもっとコミュニケーションをとるべきだったという点である。私たち６人は準備期間において、自分の意見や言いたいことが言えないということが何度かあったように思う。これはメンバー間でのコミュニケーションがうまくとれていなかったからかなと思っている。準備期間で言えなかったぶん、訪中期間にそのような今までの蓄積が爆発してしまった時があった。今ではもうお互いに頼るべきところは頼り、言いたいことが言えるという関係性になっているが、もう少し早い段階でこの関係を構築できていたら爆発は起きなかったはずだ。さらにコミュニケーションの面でいうと、先生方や先輩方、周さん、立川さんとの関係性についても同じようなことが言える。やはり私たちだけでは初めての経験で分からないことだらけだったので、先生方や先輩方、周さん、立川さんにもう少し早くから情報共有をして、たくさん頼ってよかったなとも思った。もう少し早い段階から６人＋教員や先輩方、周さん、立川さんとの歩幅を合わせるべきだったと反省している。

２つ目は役割分担のやり方についてである。できるだけ６人で役割分担をしてスムーズに進められるように工夫していたが、なかなかうまくいかないことが多かった。団長、交

流会担当、会計が当初の役割分担だったが、進んでいくにつれて行程表担当やお土産担当、リスク管理担当など役割が増えていってややこしくなってしまったり個々で役割を背負いすぎたりしたので、役割分担も大切だが細かくしすぎず、できることは全体でやるべきだと思った。役割を分担すると、その役割ごとに各々で作業をしていて６人で共同作業をする時間が少なかったように感じた。結果として、行程表を早めに完成することができず、予算の作成も遅れてしまったと感じた。また、副団長という重要な役割を決めずに進めてきてしまい、訪中に行く直前になって副団長を決めることになった。副団長を早めに決めなかったために、団長に仕事が偏ってしまうことが多々あったので、絶対にもっと早く決めるべきだった。

３つ目は、ミーティングの回数が足りなかったということだ。この６人はバイトにサークル、学外活動など様々なことに興味がある人ばかりで予定が合いにくかった。それを言い訳にミーティングの回数を増やそうとしなかったことが、全体としての大きな反省点である。役割分担の話にもつながってくるが、自分の役割を個々で行いミーティングではそれを共有するだけということが多かった。もっと６人で集まる回数を増やせば、先ほど述べた、できることは全体でやるということも達成できたと思うし、全体的に準備が遅れてしまうこともなかったのかなと思っている。

個人の反省としては、自分の担当のところを後回しにせず早めにとりかかっておくべきだったと感じている。私は会計担当だったため、予算表の作成に尽力したが、行程ができあがらないと予算表を作成することができないと考え、後回しにしてしまっていた。結局予算表を作成することが本当に直前になり、その作業に時間がかかったために授業の準備に手をまわすことができなかったと反省している。授業についても、私の後回しにしてしまう性格が災いして班のメンバーに仕事が偏っていたこともあった。また、お土産に関して、出国する前日までお土産を買いに行ったりラッピングをしたりとかなりハードスケジュールになってしまっていた。私はお土産担当になり、先生方にどんなお土産を渡すか少し早めから考えていたが、先生ごとに別々のお土産を渡すことを考えていなくて大まかなお土産リストしか作っていなかった。洋子先生や先輩方に先生方の特徴や去年はどんなお土産を渡していたのか、私が聞いていたのにも関わらず、１人１人にあったお土産を渡すといったイメージがなかなかわかず、みんな同じでいいかと浅はかな考えのまま進めてしまっていた。

次回同じことをするならコミュニケーションを１番に重視して、「頼ること」も大切にしたい。今後の生活のまた、相手の意見を聞きつつ自分の意見を主張しなければならないという難しさも学んだ。おかしいと思った瞬間から自分の考えをしっかり言語化してメンバーに話すことで、のちの衝突を防ぐことができ結果的にはその方が物事が円滑に進むということが分かったので、この学びを今後に活かしていきたいと思った。そして、役割分担は確実に最初の段階で行っておくべきであり、役割分担を行った上でカバーできるところは全体でカバーして助け合って進めていくことが重要であると感じた。それらを心がける

ことで必然的にミーティングの回数も増えていっただろうと思う。

2.訪中期間を振り返って

〇自分の役割について

個人の役割としては会計という重大な役割を担っており、その都度金額をメモしたり、１日が終わるごとに使ったお金と予算を照らし合わせて計算したり、大変なことや初めてのことをたくさん経験した。周さんや立川さん、楊さん、田さんにタクシー代を払っていただくことが多かったのでその都度メモして、誰にいくら返すべきか把握しておかなければならなかったことも責任重大だった。でも１人ではなかったので、谷さんと協力して乗り越えることができた。谷さんがいつも私を引っ張ってくれて本当に感謝している。谷さんのアイデアで、現地では団費のお金を管理する人と領収書を管理する人に分けて管理したことや、ホテル代、食事代、観光費などの項目ごとに封筒で分けて管理していたのが分かりやすくて良かった。日本円とは違って、元やパタカとなるとうまく計算できないところや計算があわないこともあったが、２人でできないところは他の人にも手伝ってもらい、助け合いながらお金を計算し管理することができた。換金をするという経験も初めてのことだったが、これも海外に詳しい岩田さんに教えてもらいながら乗り越えることができた。みんなの力を借りながらも、このような重要な役割を全うできたことは今後の人生の糧になると思う。

〇交流会について

交流会での互いの自己紹介を経て、北京師範大学の方々が普段どんな勉強をしているのか、またそれぞれの趣味なども知ることができた。北京師範大学の学生は皆、私よりもずっと英語が上手で自分の英語力はまだまだだと感じた。もう少し英語を勉強しておけば、もっとうまくコミュニケーションをとることができたかもしれないとも思った。英語を聞きとることはできても、それに対する答えをうまく英語で話すことができず悔しかったので、これからもっと英語を勉強しようというモチベーションにつながった。

個人的な反省点としては、自己紹介のスライドを直前になって作ってしまっていたためもう少し早くから準備しておくべきだったと思った。早めに準備して練習する時間をとることができていれば、スムーズな発表になったのではないかと思う。全体としては、日本の学生の準備が中国の学生と比べて不十分であった点を反省点として挙げる。中国の学生たちは、自分の国や大学を紹介するスライドを多く交えていたが、私たちはそこまで準備していなかったし、１人１人の発表時間も短かったように感じた。次回同じことをするとしたら、自己紹介だけでなく、自分の故郷や大学で学んでいることの紹介などを交えた発表をできるように工夫したい。文化的な違いやそれぞれの国の慣習なども理解していた方がさらに仲が深まったのではないかと思った。

交流会を通して成長したことは、英語でスピーチする力がついたことだと思う。英語で

自分のことをスピーチする機会はめったにないことなので貴重な経験になった。自分の英語が通じると楽しかった。言語も文化も違う人たちとこのように交流し、英語を使ってコミュニケーションをとったという経験は、現在履修している pace の授業にも活かせるのではないかと思った。交流会の後にカラオケに行った時も、最初は言語が違う人とカラオケに行くことは楽しめるのか不安だったが、歌の力は偉大で中国語の曲でもいい曲だなぁと思えたり感動したりした曲がたくさんあった。終盤では、英語の曲をみんなで歌って盛り上がりとても楽しかった。言語は違っていても、感じたことを共有することはできるし、伝えようという気持ちがあれば伝わるのだということを知り大きな学びになった。

〇授業について

私たち（岩田、谷、横山）は 6 年 1 組の授業を担当し、「中国と日本のお正月の違い」を知ってもらうために、日本のお正月の時期や食事、遊びについて授業した。クイズや体験活動を取り入れたら楽しみながら学ぶことができるのではないかと考え、そのように準備を進めた。当初は体験活動で「福笑い」を体験してもらおうと予定していたが、直前で変更となり、先生方や先輩方の助言もふまえて「かるた」と、時間が余ったら「けん玉」を体験してもらうということに決めた。直前の変更にうまく対応できなかったこともあり、私たちのグループは少し準備が遅れていた。前日の夜になってやっとかるたを作ったりスライドの修正をしたりした。それらに時間がかかってしまい、発表原稿を書く時間やリハーサルをする時間がとれなかった。そこはもう少し早めに準備しておくべきだったと反省している。もう一度同じことをやるとしたら、リハーサルを何度も繰り返しやって、こうなったらどうするかとか、どうやったらスムーズに進行できるかを 3 人でしっかり話し合ってから挑みたい。また、英語、中国語、日本語、どの言語で授業するのか前日になってやっと決まったので、そこはもう少し早くから担任の先生とコミュニケーションをとって決定しておくべきだった。授業の途中、かるたを配るタイミングやプレゼントするシールを渡すタイミング、また体験活動を具体的にどのように進めるのかなどで迷ってしまい、スムーズに進められなかった時があったので、やはり事前準備がもう少ししっかりできていたらうまくいったのではないかなと思った。私たちが迷ってしまっていた時に、通訳の周さんがたくさん助けてくださったおかげで成功することができた。「かるた」が日本語であったために伝わりづらい点もあったが、周さんがうまく翻訳してくださったことが成功の鍵となったと感じている。私たちが未熟だった部分をフォローしてくださった周さんに感謝したい。

少しあたふたしてしまった部分もあったが、結果的には児童の皆さんも喜んでくれていい形で終えることができた。テーマ決めとスライドの作成をかなり早めにとりかかり、あとは細かい部分を修正するだけの状態だったことを良かった点として挙げたい。クイズや体験活動を取り入れこと も、それによって児童を飽きさせず楽しく学んでもらえたと思うので大成功だった。また、発表原稿は最悪なくても何とかなるものだということが今回の

学びでもあった。発表原稿を作らないというのは何も考えないというわけではなくて、大まかに伝えたいことを頭で考えておくだけで良いという意味である。逆に私たちは発表原稿を作っていなかったおかげで、児童の反応を見ながらその後の進め方を変えたり、問いかけを増やしたりすることができたと思う。私は心配性なので、普段発表するときは原稿がないとできないタイプだった。今回もその点で授業の前はすごく不安で仕方がなかったが、それを見せないようにとにかく元気に笑顔で授業するように心がけた。臨機応変に対応することが苦手な私だったが、今回の経験によって、柔軟な対応が以前よりはうまくなった気がする。最初はすごく緊張していたが、小学生は想像以上に元気いっぱいでそのエネルギーのおかげで私の緊張もほぐれ、楽しく授業することができた。体験活動も思った以上に喜んでくれて、楽しそうな児童たちの顔をみたら頑張ってよかったなとやりがいを感じられた。ここでの自分の成長を今後に活かしていきたい。

〇異文化理解に関して得られたこと

中国の食事会を経験してみて、お茶のいれかたや目上の人にお茶をいれていただいた時のお礼の仕方などを立川さんから教えていただき、中国の文化やマナーを学ぶことができた貴重な経験となった。食事会は交流の場であるということを意識して、無言で食べることはせず、会話に参加したり自分から話題を振ったりする必要がある。しかし、私は日本とは違うマナーや料理が多くてプレッシャーや緊張を感じてしまい、あまり積極的に話すことができなかった。もう少しリラックスして食事会に参加できたら良かったと反省しているが、そのようなプレッシャーがあった中でも、中国ではこんなにたくさんのマナーがあるのだなと学びながら食事することができた。それを学んだことで、日本の文化との違いも見出せておもしろかった。日本では円卓で食事をすることがそもそもないし、食事をする前に食器を洗うという行為もしたことがなかったので、すべてが新鮮で驚きの連続だった。

訪中に行く前までは、中国に対するイメージは正直あまり良くなかった。日本で報道されるニュースなどを見て、物騒な国というイメージを勝手に持っていたが、実際に行ってみたらそんなことは微塵も感じられず、私たち日本人を温かく迎えてくださった。交流会で交流した学生も先生方も、中国の人は皆優しくて、私が見ていたのは本当に一部の人間の話であって、自分はそれだけで中国という国自体を物騒な国だと決めつけていたことに気づいた。その点ですごく自分の視野が広がり、日本を出てみるとこんなに未知の世界が広がっていて、世界にはまだまだ自分の知らないことがたくさんあると思うとわくわくした。また、今回の訪中で中国の食文化や中国語に強く興味を持つようになった。訪中期間にも気になる単語があると、立川さんや周さんに何度も尋ねた記憶がある。自分の名前やあいさつ、短い単語程度しか覚えることはできなかったが、中国語を言えた時はとてもうれしくて新しい言語を学ぶ楽しさを体感した。食事についても、日本にはないおいしい料理がたくさんあったので、今度中国に行く機会があったらぜひまた食べたいと思っている。

3.全体を通して

　まずは誰も大きな体調不良なく、無事に笑顔で帰国することができて非常に良かった。上記の通り成功したことも失敗したこともたくさんの困難があったが、自分自身大きく成長できたと感じている。そして、こんなにも中国について興味を持つようになった自分に驚いている。この授業を履修しなければ、異文化や中国についてこんなにも興味があるということに気づけなかったと思うので、履修してよかったと思った。異文化を理解することはもちろんだが、それ以外にも自国の文化や自分自身を見つめ直すこともできて一生忘れられない貴重な経験となった。

4.終わりに

最後になりましたが、私自身未熟な部分ばかりで、多くの人に助けられたおかげで乗り越えることができました。メンバーのみんな、いつも心配性な私を引っ張ってくれて、たくさん助けてくれて本当にありがとう。くじけそうな時もみんなで協力して、みんながいたから乗り越えることができました。感謝しかありません。このメンバーで行けて本当によかったと心から思います。そして、先生方、先輩方、周さん、立川さん、ここまで私たちを支えてくださって本当にありがとうございました。このような貴重な経験ができたのも、みなさんのサポートのおかげです。この経験を無駄にせず、必ず今後に活かしていきます。

# 4. その他(予算)

【訪中 2024　　予算表】

合計費用（学生）…177939 円

共通団費（学生）…100306 円

※1 人民元=22 円にて計算（→空港の換金レートで計算）

※1 マカオ・パタカドル=20 円にて計算（→空港の換金レートで計算）

| | 項目 | 個数 | 金額(日本円) | 金額(人民元 | 金額(パタカ) | 詳細 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 航空券代　往復 | 1 | 49,883 | | | 往復の値段 | |
| | 新幹線（新潟⇔東京間） | 1 | 16,460 | | | 往復の値段 | |
| | 成田エクスプレス（東京⇔成田空 | 1 | 4,920 | | | 往復の値段 | |
| | 宿泊費(マカオ） | 1 | 15,500 | | | 2泊分込みの値段 | |
| 現金 | 宿泊費(珠海)　ツイン | 1 | 17,000 | 772.727273 | | 3泊分込みの値段 | |
| 現金 | 宿泊費（広州）ツイン | 1 | 10,700 | 486.363636 | | 2泊分込みの値段 | |
| | 交通費 (マカオ国際空港→ボーダーゲート) | 1 | 700 | 35 | | 9/19(木) | |
| | 交通費 (ボーダーゲート→北京師範大学珠海校区国際交流中心ホテル) | 1 | 461.5384615 | 20.979021 | | 9/19（木） | ６人乗り2000円×３ |
| | 交通費(北京師範大学珠海校区国際交流中心→会同村) | 1 | 660 | 30 | | 9/19（木） | |
| | 交通費(北京師範大学珠海校区国際交流中心ホテル⇔野狸岛公园) | 1 | 660 | 30 | | 9/20（金） | |
| | 交通費（北京師範大学珠海校区国際交流中心ホテル→明珠） | 1 | 440 | 20 | | 9/22（日） | |
| | 交通費（明珠→広州南の高鉄） | 1 | 1591 | | | 9/22（日） | |
| | 交通費(広州南駅→广州奥园高尔夫酒店) | 1 | 461.5384615 | 20.979021 | | 9/22（日） | ６人乗り2000円×３ |
| | 交通費(南奥实验学校→南越王博物 | 1 | 660 | 30 | | 9/23（日） | |
| | 交通費(南越王博物館→北京路) | 1 | 220 | 10 | | 9/23（日） | |
| | 交通費(北京路→广州奥园高尔夫酒 | 1 | 770 | 35 | | 9/23（日） | |
| | 交通費(广州奥园高尔夫酒店→ボーダーゲート) | 1 | 461.5384615 | 20.979021 | | 9/24（日） | ６人乗り2000円×３ |
| | 交通費(ゴールデンクラウンチャイナホテル→セナド広場) | 1 | 500 | | 25 | 9/24(木) | |
| | 交通費(セナド広場周辺→ベネチアンマカオ) | 1 | 500 | | 25 | 9/24(木) | |
| | 交通費(ベネチアンマカオ→ゴールデンクラウンチャイナ) | 1 | 500 | | 25 | 9/24(木) | |
| 現金 | 観光費（南越王博物館） | 1 | 220 | 10 | | 9/23（日） | |
| 現金 | お土産代(新潟から) | 1 | 4285.714286 | | | | 30000 立川さんも含み7人で割る（現時点の予算） |
| 現金 | お小遣い（元） | 1 | 8800 | 400 | | 昨年度を参考に事前に４００元を換金 | |
| 現金 | お小遣い（パタカ） | 1 | 9000 | | 450 | | |
| 現金 | 食事会費（3000円×５日間） | 1 | 15000 | 681.818182 | | 昨年度を参考にした | |
| 現金 | 会食以外の食事代（中国内　元） | 1 | 8000 | 363.636364 | | 1食2000円で計算 | |
| 現金 | 会食以外の食事代（マカオ　パタ | 1 | 6000 | | 300 | 1食2000円で計算 | |
| | 国内の食事代 | 1 | 2000 | | | 9/18(水)空港内 | |
| 現金 | 早茶 | 1 | 1500 | 68.1818182 | | 招待していただく（洋子先生のアドバイスを用いて見積もった） | |
| | 雑費（名刺） | 1 | 85 | | | | 510 円 |
| | 合計(学生) | | 177,939 | 3,036 | 825 | | |
| | 当日の団費 | 1 | 100,306 | | | | |
| | 団費-支払い済み(クレカ支払い) | | 83,215 | | | | |

# 5. 担当教員・同行教員からのコメント

渡邊 洋子先生

「地域・国際交流 B」受講メンバーの皆さん、大変お疲れさまでした。

単位のかかった「授業」を入り口に、「学生主体現地国際交流」という壮大なプロジェクトに取り組みました。「違う他者と出会い他者とともに他者を知ることを通して、自らと向き合い自らのあり方を問う」プロジェクトです。皆さんが、すべての工程にたくさんのエネルギーや努力・苦労をもって向き合い、互いに悩み苦しみながら協力し合い助け合い、無事に多大な成果をもって終えられたことを、心から慶びたいと思います。教員の役割は終始、後ろに控えて待機・見守りに留まるという「完全な黒子」であり、フラストレーションの多いものでした。すべてこちらでお膳立てした方がどれだけ気楽だったかもしれません。とはいえ、授業開始時と比較してここまで成長された皆さんを見ると、これでよかったかもしれない、とも思っています。私は 100 点満点で 100 点はつけない方針です。そこに安住してしまい「次」の課題へのまなざしが持てなくなると思うからです。今回の経験を stepping stone として、「次」のチャレンジに向かって大きく羽ばたいて下さい。

田中 一裕先生

創生学部では 3 度目の「地域・国際交流 B」による訪中でしたが、今回は学生自身による手作り感が最も高く、かなり苦労したと思います。

国際交流プログラムの準備は、決して楽なものではありません。言語の壁、文化の違い、慣れない環境など、様々な困難があったと思います。しかし、チームワークを活かし、情報共有を密にすることで、これらの課題を乗り越えてきました。特に、行程表の作成や授業計画の立案など、学生主体でプログラムを企画・運営したことは、大きなチャレンジだったと思います。そしてその過程で、計画力、実行力、交渉力など、社会に出ても役立つ実践的なスキルを身につけることができたのではないでしょうか。

今回の国際交流体験は、皆様の今後の学習や職業観にも大きな影響を与えたことでしょう。異文化への興味関心が高まり、英語学習や他の海外プログラムへの参加意欲が向上した学生もいます。また、グローバルな企業への興味も湧いたようです。これらの経験を活かし、グローバルな視点を持って、今後の学習やキャリア形成に励んでください。大学で学ぶ専門知識に加え、国際交流で培った異文化理解力やコミュニケーション能力は、社会に出ても必ず役に立つはずです。

テクノロジーの進歩により、世界中の人々が繋がりやすくなった現代においても、国際交流の意義は決して薄れることはありません。言語や文化の違いを超えた触れ合いを通し

て、他者を理解するだけでなく、自分自身を見つめ直す良い機会となります。今回の国際交流活動により、自己理解を深め、今後のさらなる成長に繋がることを心から願っています。そして、この経験を活かし、グローバル社会で活躍できる人材へと成長してくれることを期待しています。

堀籠 崇先生

大変お疲れ様でした。私は，この授業で最も重要なのは「地域」と「国際」という言葉が一緒になっている点にあると考えます。地域（＝ローカル）から国際（＝グローバル）を捉え，国際から地域を見つめ直す――こうした「グローカルな視点」が求められているのです。他国の歴史や文化，価値観に触れることで，自国を新たな視点から捉え直す機会にもなったのではないでしょうか。それは，個人レベルでは，他者理解と自己理解が表裏一体であることを意味しています。この授業を通じて得た気づきが，皆さんのこれからの未来に向けた学びのきっかけやヒントとなることを願っています。授業を終えた今，皆さんはどのような思いを抱いているでしょうか。